

■経営状況に関する事項

財務諸表	貸借対照表	54
	損益計算書	55
	剰余金処分計算書	56
	注記表	57
<hr/>		
貯金業務	科目別貯金平均残高	70
	定期貯金金利条件別残高	70
<hr/>		
貸出業務	科目別貸出金平均残高	71
	貸出金の金利条件別残高	71
	貸出金の担保別残高	71
	債務保証の担保別残高	72
	貸出金の使途別残高	72
	貸出金の業種別残高	72
	主要な農業関係の貸出金残高	73
	元本補てん契約のある信託にかかる貸出金のリスク管理債権の状況	73
	貸倒引当金の期末残高および期中の増減額	74
	貸出金償却額	74
	リスク管理債権額の状況	74
	金融再生法開示債権区分に基づく保全状況	75
	<hr/>	
有価証券業務	種類別有価証券平均残高	76
	商品有価証券種類別平均残高	76
	有価証券残存期間別残高	76
<hr/>		
時価情報	有価証券の時価情報	77
	金銭の信託の時価情報	78
	デリバティブ取引の時価情報	78
	金融等デリバティブ取引の時価情報	78
	有価証券関連店頭デリバティブ取引の時価情報	78
<hr/>		
経営諸比率等	損益の状況	79
	受取・支払利息の増減額	79
	利益率	80
	貯貸率・貯証率	80
	資金運用勘定・調達勘定の平均残高・利息・利回り	80
	役員等の報酬体系	81
<hr/>		
連結情報	グループの事業系統図	82
	子会社の状況	82
	事業概況	82
	連結ベースの主要な経営指標	83
	連結リスク管理債権額の状況	83
	連結セグメント情報	83
	連結貸借対照表	83
	連結損益計算書	84
	連結剰余金計算書	85
	連結キャッシュ・フロー計算書	86
	注記表	87

財務諸表

貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	平成31年3月末	令和2年3月末	科 目	平成31年3月末	令和2年3月末
(資産の部)			(負債の部)		
現金	3,836	6,637	貯金	7,813,138	7,962,914
預け金	4,355,498	4,495,391	当座貯金	9,304	19,161
系統預け金	4,355,498	4,495,391	普通貯金	11,283	12,153
金銭の信託	188,451	208,617	貯蓄貯金	39	40
有価証券	3,178,826	3,139,312	通知貯金	1	1
国債	2,053,460	1,840,396	別段貯金	755	2,349
地方債	175,590	173,146	定期貯金	7,791,720	7,929,196
社債	134,132	123,195	定期積金	33	10
外国証券	33,697	33,594	譲渡性貯金	1,500	2,300
株式	15,149	14,261	借入金	175,185	167,800
受益証券	766,795	954,717	その他負債	56,923	57,115
貸出金	544,777	538,223	未払法人税等	1,827	451
手形貸付	8,502	7,292	貯金利子諸税その他	75	63
証書貸付	394,424	388,814	従業員預り金	511	500
当座貸越	23,512	23,200	金融派生商品	770	532
金融機関貸付	118,338	118,917	仮受金	7,974	8,888
その他資産	10,131	11,037	リース債務	53	326
従業員貸付金	122	116	資産除去債務	115	118
差入保証金	1,165	1,165	その他の負債	6	6
金融派生商品	770	532	未払費用	45,553	46,203
仮払金	1,286	1,097	前受収益	7	12
その他の資産	161	1,869	未決済為替借	28	12
未収収益	6,558	6,226	諸引当金	16,016	15,881
未決済為替貸	66	29	相互援助積立金	12,624	12,624
有形固定資産	2,657	2,822	賞与引当金	168	161
建物	2,012	1,876	退職給付引当金	2,703	2,567
土地	519	519	役員退職慰労引当金	54	69
リース資産	65	365	環境対策引当金	71	71
その他の有形固定資産	60	61	特例業務負担金引当金	393	386
無形固定資産	417	477	繰延税金負債	45,675	35,039
ソフトウェア	410	471	債務保証	6,902	4,439
その他の無形固定資産	7	6	負債の部合計	8,115,341	8,245,490
外部出資	312,983	312,983	(純資産の部)		
系統出資	312,585	312,585	出資金	209,402	220,402
系統外出資	297	297	(うち後配出資金)	(155,000)	(166,000)
子会社等出資	100	100	再評価積立金	0	0
債務保証見返	6,902	4,439	利益剰余金	154,797	157,391
貸倒引当金	△ 2,954	△ 2,492	利益準備金	58,684	61,384
			その他利益剰余金	96,113	96,007
			リスク対策積立金	14,800	14,800
			特別積立金	56,794	56,794
			当期末処分剰余金	24,519	24,413
			(うち当期剰余金)	(13,113)	(9,255)
			会員資本合計	364,200	377,794
			その他有価証券評価差額金	121,986	94,167
			評価・換算差額等合計	121,986	94,167
			純資産の部合計	486,186	471,962
資産の部合計	8,601,528	8,717,452	負債及び純資産の部合計	8,601,528	8,717,452

損益計算書

(単位：百万円)

科 目	平成30年度	令和元年度
経常収益	79,304	72,814
資金運用収益	64,795	58,585
貸出金利	8,102	4,639
預け金利息	415	415
有価証券利息配当	22,706	23,831
コール口オン利息	0	—
その他の受入利息	33,570	29,699
(うち受取奨励金)	(30,256)	(27,536)
(うち受取特別配当金)	(3,313)	(2,161)
役務取引等収益	4,134	4,184
受入為替手数料	46	44
その他の受入手数料	4,087	4,139
その他の事業収益	2,144	4,999
国債等債券売却益	713	—
金融派生商品収益	—	0
その他の事業収益	1,430	4,999
その他の経常収益	8,230	5,044
償却債権取立益	0	1
株式等売却益	4,875	941
資金の信託運用益	3,291	4,014
その他の経常収益	62	88
経常費用	62,249	62,260
資金調達費用	50,721	51,400
貯蓄性貯金利息	12,423	6,616
借入金利息	0	0
その他の支払利息	646	537
(うち支払奨励金)	37,649	44,246
(うち支払奨励金)	(37,643)	(44,233)
役務取引等費用	3,000	3,019
支払為替手数料	4	4
その他の支払手数料	2,995	3,014
その他の役務取引等費用	0	0
その他の事業費用	702	530
支払助成金	702	530
経常費用	6,863	6,537
人件費	2,820	2,653
物費	3,867	3,712
税	176	172
その他の経常費用	961	772
貸倒引当金繰入額	17	601
相互援助積立金繰入額	846	—
株式等売却損	74	54
資金の信託運用損	6	21
その他の経常費用	16	95
経常利益	17,055	10,553
特別利益	194	—
固定資産処分益	194	—
特別損失	395	2
固定資産処分損	2	2
特例業務負担金引当金繰入額	393	—
税引前当期利益	16,853	10,551
法人税、住民税及び事業税	3,874	1,225
法人税等調整額	△ 134	69
法人税等合計	3,739	1,295
当期剰余金	13,113	9,255
当期首繰越剰余金	11,405	15,157
当期末処分剰余金	24,519	24,413

財務諸表

剰余金処分計算書

(単位：百万円)

科 目	平成30年度	令和元年度
当 期 未 処 分 剰 余 金	24,519	24,413
剰 余 金 処 分 額	9,361	8,306
利 益 準 備 金	2,700	2,000
任 意 積 立 金	—	—
普 通 出 資 配 当 金 (配 当 率)	1,904 (3.50%)	1,904 (3.50%)
後 配 出 資 配 当 金 (配 当 率)	1,444 (1.00%)	1,554 (1.00%)
事 業 分 量 配 当 金	3,313	2,847
次 期 繰 越 剰 余 金	15,157	16,106

注記表

平成 30 年度

1 重要な会計方針に関する事項

- (1) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しており、金額百万円未満の科目については「0」で表示しています。
- (2) 有価証券（外部出資勘定の株式を含む。）の評価基準および評価方法は、有価証券の保有目的区分ごとに次のとおりです。
- ア 売買目的有価証券 … 時価法（売却原価は移動平均法により算定）
- イ 子会社株式および関連会社株式 … 原価法（売却原価は移動平均法により算定）
- ウ その他有価証券
- （ア）時価のあるもの … 原則として決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
- （イ）時価を把握することが極めて困難と認められるもの … 原価法（売却原価は移動平均法により算定）
- なお、取得価額と券面金額との差額のうち金利調整と認められる部分については、償却原価法による取得価額の修正を行っています。
- (3) 金銭の信託の評価基準および評価方法は、上記(2)の有価証券と同様の方法であり、信託の契約単位ごとに信託財産の構成物である資産および負債の評価額の合計額をもって貸借対照表に計上しています。
- (4) デリバティブ取引の評価は、時価法により行っています。
- (5) 有形固定資産（リース資産を除く。）の減価償却は、定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く。）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については定額法）を採用し、資産から直接減額して計上しています。
- また、主な耐用年数は次のとおりです。
- | | |
|-------|--------|
| 建 物 | 7年～50年 |
| そ の 他 | 3年～45年 |
- (6) 無形固定資産の減価償却は、定額法により償却しています。そのうち自社利用ソフトウェアについては、当会における利用可能期間（5年）に基づいて償却しています。
- (7) 所有権移転外ファイナンス・リース取引にかかる「有形固定資産」中のリース資産の減価償却は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しています。なお、残存価額については、零としています。
- (8) 外貨建の資産・負債は、主として決算日の為替相場による円換算額を付しています。
- (9) 貸倒引当金は、資産の償却および引当要額により、次のとおり計上しています。
- 正常先債権および要注意先債権（要管理債権を含む。）に相当する債権については、貸倒実績率等に基づき算定した額を計上しています。
- 破綻懸念先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額および保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち必要と認める額を引き当てています。
- 破綻先債権および実質破綻先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額および保証による回収可能見込額を控除した残額を引き当てています。
- すべての債権は、資産自己査定規程に基づき、資産査定部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しています。
- (10) 相互援助積立金は、J Aバンクの信用向上に資することを目的として、愛知県 J Aバンク支援制度要領に基づき、必要額を積み立てております。
- (11) 賞与引当金は、職員への賞与の支払いに備えるため、職員に対する賞与の支給見込額のうち、当年度に帰属する額を計上しています。
- (12) 退職給付引当金は、職員の退職給付に備えるため、当年度末における退職給付債務の見込額に基づき、必要額を計上しています。退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっています。
- また、過去勤務費用および数理計算上の差異の費用処理方法は、発生年度における一括処理としています。
- (13) 役員退職慰労引当金は、役員の退任給与の支給に備えるため、役員退職慰労金引当規程に基づき、当年度末要支給見積額を計上しています。
- (14) 環境対策引当金は、ポリ塩化ビフェニル（PCB）廃棄物の処理費用の支出に備えるため、処理費用および収集運搬費用の見積額を計上しています。
- (15) 特例業務負担金引当金は、農林漁業団体職員共済組合により通知される特例業務負担金の将来負担見込額に基づき計上しています。
- （追加情報）
- 従来、特例業務負担金については、将来見込額を注記する方法によっておりましたが、将来負担額の確実性が高まったことから、財務内容をより健全化するため、当年度より特例業務負担金引当金として負債に計上する方法に変更しております。
- これにより、従来の方法によった場合と比較して、税引前当期利益が393百万円減少しております。
- (16) 消費税および地方消費税の会計処理は、税抜方式により行っています。ただし、固定資産にかかわる控除対象外消費税等は当年度の費用に計上しています。

（追加情報）

『「税効果会計に係る会計基準」の一部改正』（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当事業年度から適用しています。

2 貸借対照表に関する事項

- (1) 有形固定資産の減価償却累計額は、3,719百万円です。
- (2) 貸借対照表に計上した固定資産のほか、リース契約により使用している重要な固定資産として自動車等があり、未経過リース料年度末残高相当額は、次のとおりです。
- | | | | |
|--------------|-------|-------|-------|
| | 1年以内 | 1年超 | 合 計 |
| オペレーティング・リース | 22百万円 | 11百万円 | 33百万円 |
- (3) 内国為替決済の取引の担保および先物取引証拠金等の代用として、預け金60,000百万円、有価証券1,018百万円および差入保証金6百万円を提供しています。

財務諸表

平成 30 年度

- (4) 無担保の消費貸借契約（債券貸借取引）により貸し付けている有価証券が、国債に合計8,154百万円含まれております。
- (5) 子会社等に対する金銭債権はありません。
- (6) 子会社等に対する金銭債務の総額は666百万円です。
- (7) 経営管理委員、理事および監事に対する金銭債権はありません。
- (8) 経営管理委員、理事および監事に対する金銭債務はありません。
- (9) 貸出金のうち、破綻先債権額は1,070百万円、延滞債権額は1,047百万円です。

なお、破綻先債権とは、元本または利息の支払いの遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本または利息の取立てまたは弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由または同項第4号に規定する事由が生じている貸出金です。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権および債務者の経営再建または支援を図ることを目的として利息の支払いを猶予した貸出金以外の貸出金です。

- (10) 貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額はありません。
- なお、3カ月以上延滞債権とは、元本または利息の支払いが約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸出金で破綻先債権および延滞債権に該当しないものです。
- (11) 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は2,881百万円です。
- なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建または支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権および3カ月以上延滞債権に該当しないものです。
- (12) 破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額および貸出条件緩和債権額の合計額は4,999百万円です。
- なお、(9)から(12)に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額です。
- (13) 割引手形は、業種別監査委員会報告第24号に基づき、金融取引として処理しています。これにより受け入れた商業手形は、自由に処分できる権利を有していますが、当年度末の残高はありません。
- (14) 当座貸越契約および貸付金にかかるコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約です。
- これらの契約にかかる融資未実行残高は、86,004百万円です。
- (15) 貸出金には、他の債権よりも債務の履行が後順位である旨および債務者が実質破綻状態と認定された場合には後配出資へ強制転換される旨の特約が付された劣後特約付貸出金83,824百万円が含まれています。
- (16) 借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金55,000百万円が含まれています。

3 損益計算書に関する事項

- | | |
|---------------------|--------|
| (1) 子会社等との取引による収益総額 | 3百万円 |
| うち事業取引高 | 3百万円 |
| (2) 子会社等との取引による費用総額 | 225百万円 |
| うち事業取引高 | 225百万円 |

4 金融商品に関する事項

(1) 金融商品の状況に関する事項

ア 金融商品に対する取組方針

当社は、愛知県を事業区域として、地元のJA等が会員となって運営されている相互扶助型の農業専門金融機関であり、地域経済の活性化に資する地域金融機関です。

JAは農家組合員や地域から預かった貯金を原資に、農家組合員や地域へ貸し付け、その残りを当会が預かる仕組みとなっています。

当会では、これを原資として、資金を必要とするJAや農業に関連する企業・団体および、県内の地場企業や団体、地方公共団体などに貸付を行っています。

また、残った資金は農林中央金庫に預け入れるほか、国債や地方債等の債券、投資信託、株式等の有価証券による運用を行っています。

イ 金融商品の内容およびそのリスク

当会が保有する金融資産は、主として県内の取引先および個人に対する貸出金および有価証券であり、貸出金は、顧客の契約不履行によってもたらされる信用リスクにさらされています。

また、有価証券は、主に株式、債券、投資信託であり、純投資目的（その他目的）で保有しています。

これらは、それぞれ発行体の信用リスクおよび金利の変動リスク、市場価格の変動リスクにさらされています。

なお、デリバティブ取引には、金利スワップ取引があり、金利の変動リスクにさらされています。

借入金には、自己資本増強の一環として、会員である地元のJAから借り入れた永久劣後特約付借入金が含まれています。

劣後特約付借入金は、債務返済の履行が他の債務よりも後順位である旨の特約が付された無担保・無保証の借入金であり、自己資本比率の算出において適格旧資本調達手段として経過措置により自己資本への計上が認められているものです。

平成 30 年度

ウ 金融商品にかかるリスク管理体制

(ア) 信用リスクの管理

当会は、リスク管理方針および信用リスク管理規程に基づき、信用リスクの管理を行っています。

貸出金については、個別案件ごとの与信審査の実施、与信限度額、信用格付、保証や担保の設定、信用情報の管理、問題債権への対応などを行っています。

これらの与信管理については、食農法人営業部および業務部のほかリスク統括部により行われています。

また、与信管理の状況については、リスク統括部が定期的にモニタリングを実施し、資金運用リスク管理委員会、統合リスク・財務統括委員会および理事会へ報告しています。

有価証券の発行体の信用リスクについては、リスク統括部において、格付や時価を把握することで管理を行い、資金運用リスク管理委員会へ報告しています。

(イ) 市場リスクの管理

a 金利リスクの管理

当会は、リスク管理方針および市場リスク管理規程に基づき、ALMにより金利リスクの管理を行っています。

また、資産・負債を総合的に管理し、運用方針などを策定するALM委員会を設置し、金利リスクの把握・分析および対応策の協議を行っています。

なお、財務企画部において、資産・負債の金利や期間を総合的に把握し、シミュレーション分析等を行い、ALM委員会へ報告しています。

b 為替リスクの管理

当会は、リスク管理方針および市場リスク管理規程に基づき、為替レートや個別の案件ごとの時価等を把握することで、為替リスクの管理を行っています。

c 価格変動リスクの管理

当会は、リスク管理方針および市場リスク管理規程に基づき、価格変動リスクの管理を行っています。

有価証券等の運用については、余裕金運用規程に従い、理事会で承認された運用方針に基づき行っています。

また、利用限度枠等を設定し、運用状況の継続的なモニタリングを通じ、価格変動リスクの軽減を図っています。

なお、価格変動リスクの状況については、有価証券等の運用商品の時価等により把握し、利用限度枠等の運用状況とともに、リスク統括部から資金運用リスク管理委員会、統合リスク・財務統括委員会および理事会へ報告しています。

d デリバティブ取引

デリバティブ取引に関しては、取引の執行と事務管理に関する部門をそれぞれ分離し、内部けん制を確立した中で行っております。

e 市場リスクにかかる定量的情報

当会で保有している金融商品は、すべてトレーディング目的以外の金融商品です。

当会において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、「預け金」、「貸出金」、「有価証券」のその他有価証券に分類される債券、「貯金」、「借入金」、「デリバティブ取引」のうち金利スワップ取引です。

当会では、これらの金融資産および金融負債について、期末後1年程度の金利の合理的な予想変動幅を用いた経済価値の変動額を、金利の変動リスクの管理に当たっての定量的分析に利用しています。

金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当年度末現在、指標となる金利が0.20%上昇したものと想定した場合には、経済価値が39,782百万円減少するものと把握しています。

当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数の相関を考慮していません。

また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

(ウ) 流動性リスクの管理

当会は、リスク管理方針および流動性リスク管理規程に基づき、適時に資金管理を行うほか、市場環境を考慮した長短の調達バランス調整などによって、流動性リスクを管理しています。

エ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価（時価に代わるものを含む。）には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額（これに準ずる価額を含む。）が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なる場合もあります。

財務諸表

平成 30 年度

(2) 金融商品の時価等に関する事項

ア 金融商品の貸借対照表計上額および時価等

当年度末における貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額は、次のとおりです。
なお、時価の把握が困難なものについては、次表には含めず下記ウに記載しています。

(単位：百万円)

項 目	貸借対照表計上額	時 価	差 額
預け金	4,355,498	4,355,685	186
金銭の信託	188,451	188,451	—
運用目的の金銭の信託	4,993	4,993	—
その他目的の金銭の信託	183,458	183,458	—
有価証券	3,178,826	3,178,826	—
その他有価証券	3,178,826	3,178,826	—
貸出金	544,900		
貸倒引当金	△ 2,926		
貸倒引当金控除後	541,973	548,321	6,347
資 産 計	8,264,750	8,271,284	6,534
貯金	7,814,638	7,821,303	6,664
借入金	175,185	175,185	0
負 債 計	7,989,823	7,996,489	6,665
デリバティブ取引			
ヘッジ会計が適用されていないもの	(0)	(0)	—
デリバティブ取引計	(0)	(0)	—

- (注) 1 貸出金に対応する一般貸倒引当金および個別貸倒引当金を控除しています。
2 貸出金には、貸借対照表上のその他資産に計上している従業員貸付金122百万円を含めています。
3 貯金には、貸借対照表上の譲渡性貯金1,500百万円を含めています。
4 デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で表示しています。

イ 金融商品の時価の算定方法

(ア) 資産

a 預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

満期のある預け金については、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートである円Libor・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

b 金銭の信託

信託財産を構成している貸出金や有価証券の時価は、下記cおよびdと同様の方法により評価しています。

c 有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引所の価格または取引金融機関等から提示された価格によっています。また、投資信託については、公表されている基準価格によっています。

d 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額として算定しています。

一方、固定金利によるものは、貸出金の種類、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートである円Libor・スワップレートで割り引き、貸倒引当金を控除して時価に代わる金額として算定しています。

また、延滞債権・期限の利益を喪失した債権等については、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額として算定しています。

(イ) 負債

a 貯金

要求払貯金については、決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしています。また、定期性貯金の時価は、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートである円Libor・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

b 借入金

借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当会の信用状態は、実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっています。

一方、固定金利によるものは、一定の期間毎に区分した当該借入金の元利金の合計額をリスクフリーレートである円Libor・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

(ウ) デリバティブ取引

デリバティブ取引は、金利関連取引（金利スワップ等）であり、割引現在価値により算出した価額によっています。

平成 30 年度

ウ 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであり、これらは上記アの金融商品の時価情報には含まれていません。

貸借対照表計上額

外部出資 312,983百万円

(注) 外部出資のうち、市場価格のある株式以外のものについては、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価開示の対象としていません。

エ 金銭債権および満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

項目	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
預け金	4,355,498	—	—	—	—	—
有価証券	206,231	375,769	159,183	314,664	474,160	1,390,593
その他有価証券のうち満期があるもの	206,231	375,769	159,183	314,664	474,160	1,390,593
貸出金	87,289	91,343	83,932	55,314	57,465	168,155
合計	4,649,019	467,112	243,116	369,979	531,625	1,558,749

(注) 1 貸出金のうち、当座貸越（融資型を除く。）3,379百万円については「1年以内」に含めています。

また、期限のない劣後特約付貸出金83,824百万円については「5年超」に含めています。

2 貸出金のうち、3カ月以上延滞債権・期限の利益を喪失した債権等1,276百万円は償還の予定が見込まれないため、含めていません。

オ 借入金およびその他の有利子負債の決算日後の返済予定額

(単位：百万円)

項目	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
貯金	7,792,288	11,810	2,620	4,162	1,625	631
譲渡性貯金	1,500	—	—	—	—	—
借入金	10,985	40,400	51,600	17,200	—	55,000
合計	7,804,773	52,210	54,220	21,362	1,625	55,631

(注) 1 貯金のうち、要求払貯金については「1年以内」に含めています。

2 借入金のうち、期限のない劣後特約付借入金55,000百万円については「5年超」に含めています。

5 有価証券に関する事項

(1) 有価証券の時価および評価差額等に関する事項は、次のとおりです。

ア 売買目的有価証券

売買目的有価証券は、保有していません。

イ その他有価証券

その他有価証券において、種類ごとの貸借対照表計上額、取得原価およびこれらの差額については、次のとおりです。

(単位：百万円)

項目	種類	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	15,149	2,937	12,212
	債券	2,396,655	2,300,161	96,494
	国債	2,053,460	1,967,579	85,880
	地方債	175,364	169,822	5,542
	社債	134,132	129,258	4,874
	その他	33,697	33,500	197
	その他	610,246	548,110	62,136
	小計	3,022,051	2,851,209	170,842
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	—	—	—
	債券	225	225	△ 0
	国債	—	—	—
	地方債	225	225	△ 0
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	その他	156,548	160,810	△ 4,261
	小計	156,774	161,036	△ 4,261
合計		3,178,826	3,012,245	166,580

(注) 上記差額合計から繰延税金負債46,292百万円を差し引いた額120,287百万円が、「その他有価証券評価差額金」に含まれています。

(2) 当年度中に売却したその他有価証券は、次のとおりです。

項目	売却額	売却益	売却損
債券	167,316百万円	708百万円	—百万円
その他	12,560百万円	4,867百万円	—百万円
合計	179,877百万円	5,576百万円	—百万円

財務諸表

平成 30 年度

6 金銭の信託に関する事項

金銭の信託の保有目的区分別の内訳は、次のとおりです。

(1) 運用目的の金銭の信託

貸借対照表計上額	4,993百万円
当年度の損益に含まれた評価差額	－百万円

(2) その他の金銭の信託

項目	貸借対照表計上額	取得原価	差額	うち貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	うち貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの
その他の金銭の信託	183,458百万円	181,106百万円	2,352百万円	2,719百万円	△ 367百万円

(注) 1 上記差額合計から繰延税金負債653百万円を差し引いた額1,698百万円が、「その他有価証券評価差額金」に含まれています。

2 「うち貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの」、「うち貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの」は、それぞれ「差額」の内訳です。

7 退職給付に関する事項

(1) 退職給付

ア 採用している退職給付制度の概要

当会では、確定給付型の制度として退職一時金制度（非積立型制度）を設けており、退職給付として給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しています。

当会が有する退職一時金制度は、原則法により退職給付引当金および退職給付費用を計算しています。

イ 確定給付制度

(ア) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務	2,703百万円
勤務費用	190百万円
利息費用	6百万円
数理計算上の差異の当期発生額	△ 5百万円
退職給付の支払額	△ 192百万円
期末における退職給付債務	2,703百万円

(イ) 退職給付に関連する損益

勤務費用	190百万円
利息費用	6百万円
数理計算上の差異の当期の費用処理額	△ 5百万円
確定給付制度にかかる退職給付費用	192百万円

(ウ) 数理計算上の基礎計算に関する事項

期末における主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しています）

割引率 0.15%

(2) 人件費には、「厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合を図るための農林漁業団体職員共済組合法等を廃止する等の法律」附則第57条の規定に基づき、旧農林共済組合（存続組合）が行う特例年金給付等の業務に要する費用に充てるため拠出した特例業務負担金を含めて計上しています。

なお、当年度において存続組合に対して拠出した特例業務負担金の額は、32百万円となっています。

また、存続組合より示された平成31年3月現在における令和14年3月までの特例業務負担金の将来見込額は、393百万円となっています。

平成 30 年度

8 税効果会計に関する事項

(1) 繰延税金資産および繰延税金負債の発生原因別の主な内訳等		
(繰延税金資産の内訳)		
相互援助積立金超過額		3,508百万円
退職給付引当金超過額		751百万円
貸倒引当金超過額		262百万円
未払事業税・事業所税		248百万円
特例業務負担金繰入否認額		109百万円
減価償却損金算入限度超過額		71百万円
賞与引当金超過額		46百万円
その他		95百万円
小計		5,093百万円
評価性引当額	△	3,819百万円
繰延税金資産計 (A)		1,274百万円
(繰延税金負債の内訳)		
その他有価証券評価差額金	△	46,946百万円
その他	△	3百万円
繰延税金負債計 (B)	△	46,950百万円
繰延税金負債の純額 (A)+(B)	△	45,675百万円
(2) 法定実効税率と法人税等負担率との差異の主な原因		
法定実効税率		27.68%
(調整)		
事業分量配当金	△	5.44%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△	1.60%
評価性引当額の増減		1.44%
交際費等永久に損金に算入されない項目		0.08%
その他		0.03%
税効果会計適用後の法人税等の負担率		22.19%

財務諸表

令和元年度

1 重要な会計方針に関する事項

- (1) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しており、金額百万円未満の科目については「0」で表示しています。
- (2) 有価証券（外部出資勘定の株式を含む。）の評価基準および評価方法は、有価証券の保有目的区分ごとに次のとおりです。
- ア 売買目的有価証券 … 時価法（売却原価は移動平均法により算定）
- イ 子会社株式および関連会社株式 … 原価法（売却原価は移動平均法により算定）
- ウ その他有価証券
- （ア）時価のあるもの … 原則として決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
- （イ）時価を把握することが極めて困難と認められるもの … 原価法（売却原価は移動平均法により算定）
- なお、取得価額と券面金額との差額のうち金利調整と認められる部分については、償却原価法による取得価額の修正を行っています。
- (3) 金銭の信託の評価基準および評価方法は、上記(2)の有価証券と同様の方法であり、信託の契約単位ごとに信託財産の構成物である資産および負債の評価額の合計額をもって貸借対照表に計上しています。
- (4) デリバティブ取引の評価は、時価法により行っています。
- (5) 有形固定資産（リース資産を除く。）の減価償却は、定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く。）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については定額法）を採用し、資産から直接減額して計上しています。
- また、主な耐用年数は次のとおりです。
- | | |
|-------|--------|
| 建 物 | 7年～50年 |
| そ の 他 | 3年～45年 |
- (6) 無形固定資産の減価償却は、定額法により償却しています。そのうち自社利用ソフトウェアについては、当会における利用可能期間（5年）に基づいて償却しています。
- (7) 所有権移転外ファイナンス・リース取引にかかる「有形固定資産」中のリース資産の減価償却は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しています。なお、残存価額については、零としています。
- (8) 外貨建の資産・負債は、主として決算日の為替相場による円換算額を付しています。
- (9) 貸倒引当金は、資産の償却および引当要額により、次のとおり計上しています。
- 正常先債権および要注意先債権（要管理債権を含む。）に相当する債権については、将来発生が見込まれる損失額を見込んで計上しており、損失額は、3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定しています。
- 破綻懸念先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額および保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち必要と認める額を引き当てています。
- 破綻先債権および実質破綻先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額および保証による回収可能見込額を控除した残額を引き当てています。
- すべての債権は、資産自己査定規程に基づき、資産査定部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しています。
- (10) 相互援助積立金は、JAバンクの信用向上に資することを目的として、愛知県JAバンク支援制度要領に基づき、必要額を積み立てております。
- (11) 賞与引当金は、職員への賞与の支払いに備えるため、職員に対する賞与の支給見込額のうち、当年度に帰属する額を計上しています。
- (12) 退職給付引当金は、職員の退職給付に備えるため、当年度末における退職給付債務の見込額に基づき、必要額を計上しています。退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっています。また、過去勤務費用および数理計算上の差異の費用処理方法は、発生年度における一括処理としています。
- (13) 役員退職慰労引当金は、役員の退任給与の支給に備えるため、役員退職慰労金引当規程に基づき、当年度末要支給見積額を計上しています。
- (14) 環境対策引当金は、ポリ塩化ビフェニル（PCB）廃棄物の処理費用の支出に備えるため、処理費用および収集運搬費用の見積額を計上しています。
- (15) 特例業務負担金引当金は、農林漁業団体職員共済組合に対して支払う特例業務負担金の支出に充てるため、当年度末における特例業務負担金の将来負担見込額に基づき計上しています。
- (16) 消費税および地方消費税の会計処理は、税抜方式により行っています。ただし、固定資産にかかわる控除対象外消費税等は当年度の費用に計上しています。

2 会計上の見積りの変更に関する事項

特例業務負担金引当金は、従来、農林漁業団体職員共済組合より通知された特例業務負担金の将来負担見込額を計上していましたが、当年度より当会の標準報酬月額等の固有の状況や負担率変動の可能性等の実態をより適切に反映させることが可能となったことから、特例業務負担金の将来負担見込額に基づく方法に変更しています。

これにより、従来の方と比べて、当年度の人件費が9百万円増加し、経常利益、税引前当期利益が同額減少しています。

3 貸借対照表に関する事項

- (1) 有形固定資産の減価償却累計額は、3,826百万円です。
- (2) 貸借対照表に計上した固定資産のほか、リース契約により使用している重要な固定資産として自動車等があり、未経過リース料年度末残高相当額は、次のとおりです。
- | | 1年以内 | 1年超 | 合 計 |
|--------------|-------|-------|-------|
| オペレーティング・リース | 14百万円 | 14百万円 | 29百万円 |
- (3) 内国為替決済の取引の担保および先物取引証拠金等の代用として、預け金60,000百万円、有価証券1,003百万円および差入保証金6百万円を提供しています。

令和元年度

- (4) 無担保の消費貸借契約（債券貸借取引）により貸し付けている有価証券が、国債に合計22,299百万円含まれています。また、信託契約により信託している有価証券が、国債に合計10,286百万円含まれています。
- (5) 子会社等に対する金銭債権はありません。
- (6) 子会社等に対する金銭債務の総額は1,350百万円です。
- (7) 経営管理委員、理事および監事に対する金銭債権はありません。
- (8) 経営管理委員、理事および監事に対する金銭債務はありません。
- (9) 貸出金のうち、破綻先債権額は15百万円、延滞債権額は1,159百万円です。
 なお、破綻先債権とは、元本または利息の支払いの遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本または利息の取立てまたは弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由または同項第4号に規定する事由が生じている貸出金です。
 また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権および債務者の経営再建または支援を図ることを目的として利息の支払いを猶予した貸出金以外の貸出金です。
- (10) 貸出金のうち、3か月以上延滞債権額はありません。
 なお、3か月以上延滞債権とは、元本または利息の支払いが約定支払日の翌日から3か月以上遅延している貸出金で破綻先債権および延滞債権に該当しないものです。
- (11) 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は2,831百万円です。
 なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建または支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権および3か月以上延滞債権に該当しないものです。
- (12) 破綻先債権額、延滞債権額、3か月以上延滞債権額および貸出条件緩和債権額の合計額は4,005百万円です。
 なお、(9)から(12)に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額です。
- (13) 割引手形は、業種別監査委員会報告第24号に基づき、金融取引として処理しています。これにより受け入れた商業手形は、自由に処分できる権利を有していますが、当年度末の残高はありません。
- (14) 当座貸越契約および貸付金にかかるコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約です。
 これらの契約にかかる融資未実行残高は、79,719百万円です。
- (15) 貸出金には、他の債権よりも債務の履行が後順位である旨および債務者が実質破綻状態と認定された場合には後配出資へ強制転換される旨の特約が付された劣後特約付貸出金83,824百万円が含まれています。
- (16) 借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金44,000百万円が含まれています。

4 損益計算書に関する事項

(1) 子会社等との取引による収益総額	2百万円
うち事業取引高	2百万円
(2) 子会社等との取引による費用総額	226百万円
うち事業取引高	226百万円

5 金融商品に関する事項

(1) 金融商品の状況に関する事項

ア 金融商品に対する取組方針

当会は、愛知県を事業区域として、地元のＪＡ等が会員となって運営されている相互扶助型の農業専門金融機関であり、地域経済の活性化に資する地域金融機関です。

ＪＡは農家組合員や地域から預かった貯金を原資に、農家組合員や地域へ貸し付け、その残りを当会が預かる仕組みとなっています。

当会では、これを原資として、資金を必要とするＪＡや農業に関連する企業・団体および、県内の地場企業や団体、地方公共団体などに貸付を行っています。

また、残った資金は農林中央金庫に預け入れるほか、国債や地方債等の債券、投資信託、株式等の有価証券による運用を行っています。

イ 金融商品の内容およびそのリスク

当会が保有する金融資産は、主として県内の取引先および個人に対する貸出金および有価証券であり、貸出金は、顧客の契約不履行によってもたらされる信用リスクにさらされています。

また、有価証券は、主に株式、債券、投資信託であり、純投資目的（その他目的）で保有しています。

これらは、それぞれ発行体の信用リスクおよび金利の変動リスク、市場価格の変動リスクにさらされています。

なお、デリバティブ取引には、金利スワップ取引があり、金利の変動リスクにさらされています。

借入金には、自己資本増強の一環として、会員である地元のＪＡから借り入れた永久劣後特約付借入金が含まれています。

劣後特約付借入金は、債務返済の履行が他の債務よりも後順位である旨の特約が付された無担保・無保証の借入金であり、自己資本比率の算出において適格旧資本調達手段として経過措置により自己資本への計上が認められているものです。

ウ 金融商品にかかるリスク管理体制

(ア) 信用リスクの管理

当会は、リスク管理方針および信用リスク管理規程に基づき、信用リスクの管理を行っています。

貸出金については、個別案件ごとの与信審査の実施、与信限度額、信用格付、保証や担保の設定、信用情報の管理、問題債権への対応などを行っています。

これらの与信管理については、食農法人営業部および業務部のほかりスク統括部により行われています。

また、与信管理の状況については、リスク統括部が定期的にモニタリングを実施し、資金運用リスク管理委員会、統合リスク・財務統括委員会および理事会へ報告しています。

有価証券の発行体の信用リスクについては、リスク統括部において、格付や時価を把握することで管理を行い、資金運用リスク管理委員会へ報告しています。

財務諸表

令和元年度

(イ) 市場リスクの管理

a 金利リスクの管理

当会は、リスク管理方針および市場リスク管理規程に基づき、ALMにより金利リスクの管理を行っています。

また、資産・負債を総合的に管理し、運用方針などを策定するALM委員会を設置し、金利リスクの把握・分析および対応策の協議を行っています。

なお、財務企画部において、資産・負債の金利や期間を総合的に把握し、シミュレーション分析等を行い、ALM委員会へ報告しています。

b 為替リスクの管理

当会は、リスク管理方針および市場リスク管理規程に基づき、為替レートや個別の案件ごとの時価等を把握することで、為替リスクの管理を行っています。

c 価格変動リスクの管理

当会は、リスク管理方針および市場リスク管理規程に基づき、価格変動リスクの管理を行っています。

有価証券等の運用については、余裕金運用規程に従い、理事会で承認された運用方針に基づき行っています。

また、利用限度枠等を設定し、運用状況の継続的なモニタリングを通じ、価格変動リスクの軽減を図っています。

なお、価格変動リスクの状況については、有価証券等の運用商品の時価等により把握し、利用限度枠等の運用状況とともに、リスク統括部から資金運用リスク管理委員会、統合リスク・財務統括委員会および理事会へ報告しています。

d デリバティブ取引

デリバティブ取引に関しては、取引の執行と事務管理に関する部門をそれぞれ分離し、内部けん制を確立した中で行っております。

e 市場リスクにかかる定量的情報

当会で保有している金融商品は、すべてトレーディング目的以外の金融商品です。

当会において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、「預け金」、「貸出金」、「有価証券」のその他有価証券に分類される債券、「貯金」、「借入金」です。

当会では、これらの金融資産および金融負債について、期末後1年程度の金利の合理的な予想変動幅を用いた経済価値の変動額を、金利の変動リスクの管理に当たっての定量的分析に利用しています。

金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当年度末現在、指標となる金利が0.30%上昇したものと想定した場合には、経済価値が52,276百万円減少するものと把握しています。

当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数の相関を考慮していません。

また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

(ウ) 流動性リスクの管理

当会は、リスク管理方針および流動性リスク管理規程に基づき、適時に資金管理を行うほか、市場環境を考慮した長短の調達バランス調整などによって、流動性リスクを管理しています。

エ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価（時価に代わるものを含む。）には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額（これに準ずる価額を含む。）が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なる場合もあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

ア 金融商品の貸借対照表計上額および時価等

当年度末における貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額は、次のとおりです。

なお、時価の把握が困難なものについては、次表には含めず下記ウに記載しています。

(単位：百万円)

項 目	貸借対照表計上額	時 価	差 額
預け金	4,495,391	4,495,585	194
金銭の信託	208,617	208,617	—
運用目的の金銭の信託	4,990	4,990	—
その他目的の金銭の信託	203,627	203,627	—
有価証券	3,139,312	3,139,312	—
その他有価証券	3,139,312	3,139,312	—
貸出金	538,340		
貸倒引当金	△ 2,467		
貸倒引当金控除後	535,872	540,923	5,050
資 産 計	8,379,194	8,384,439	5,244
貯金	7,965,214	7,966,539	1,324
借入金	167,800	167,800	—
負 債 計	8,133,014	8,134,339	1,324
デリバティブ取引			
ヘッジ会計が適用されていないもの	(0)	(0)	—
デリバティブ取引計	(0)	(0)	—

(注) 1 貸出金に対応する一般貸倒引当金および個別貸倒引当金を控除しています。

2 貸出金には、貸借対照表上のその他資産に計上している従業員貸付金116百万円を含めています。

3 貯金には、貸借対照表上の譲渡性貯金2,300百万円を含めています。

4 デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、() で表示しています。

令和元年度

イ 金融商品の時価の算定方法

(ア) 資産

a 預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

満期のある預け金については、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートである円Libor・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

b 金銭の信託

信託財産を構成している有価証券や貸出金の時価は、下記cおよびdと同様の方法により評価しています。

c 有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引所の価格または取引金融機関等から提示された価格によっています。また、投資信託については、公表されている基準価格によっています。

d 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額として算定しています。

一方、固定金利によるものは、貸出金の種類、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートである円Libor・スワップレートで割り引き、貸倒引当金を控除して時価に代わる金額として算定しています。

また、延滞債権・期限の利益を喪失した債権等については、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としています。

(イ) 負債

a 貯金

要求払貯金については、決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしています。また、定期性貯金の時価は、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートである円Libor・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

b 借入金

借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当社の信用状態は、実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっています。

一方、固定金利によるものは、一定の期間毎に区分した当該借入金の元利金の合計額をリスクフリーレートである円Libor・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

(ウ) デリバティブ取引

デリバティブ取引は、金利関連取引（金利スワップ等）であり、割引現在価値により算出した価額によっています。

ウ 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであり、これらは上記アの金融商品の時価情報には含まれていません。

貸借対照表計上額

外部出資 312,983百万円

(注) 外部出資のうち、市場価格のある株式以外のものについては、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価開示の対象としていません。

エ 金銭債権および満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

項目	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
預け金	4,495,391	—	—	—	—	—
有価証券	379,018	124,498	330,501	524,874	186,487	1,375,252
その他有価証券のうち満期 があるもの	379,018	124,498	330,501	524,874	186,487	1,375,252
貸出金	123,205	86,301	59,426	72,476	35,368	161,243
合計	4,997,615	210,799	389,928	597,351	221,855	1,536,496

(注) 1 貸出金のうち、当座貸越（融資型を除く。）4,933百万円については「1年以内」に含めています。

また、期限のない劣後特約付貸出金83,824百万円については「5年超」に含めています。

2 貸出金のうち、3か月以上延滞債権・期限の利益を喪失した債権等200百万円は償還の予定が見込まれないため、含めていません。

オ 借入金およびその他の有利子負債の決算日後の返済予定額

(単位：百万円)

項目	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
貯金	7,905,044	40,310	4,291	1,625	314	11,326
譲渡性貯金	2,300	—	—	—	—	—
借入金	39,500	50,300	17,100	16,900	—	44,000
合計	7,946,844	90,610	21,391	18,525	314	55,326

(注) 1 貯金のうち、要求払貯金については「1年以内」に含めています。

2 借入金のうち、期限のない劣後特約付借入金44,000百万円については「5年超」に含めています。

財務諸表

令和元年度

6 有価証券に関する事項

(1) 有価証券の時価および評価差額等に関する事項は、次のとおりです。

ア 売買目的有価証券

売買目的有価証券は、保有していません。

イ その他有価証券

その他有価証券において、種類ごとの貸借対照表計上額、取得原価およびこれらの差額については、次のとおりです。

(単位：百万円)

項目	種類	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	14,261	2,937	11,324
	債券	2,156,880	2,083,357	73,523
	国債	1,840,396	1,777,937	62,459
	地方債	172,349	165,245	7,104
	社債	120,999	117,174	3,825
	その他	23,134	23,000	134
	その他	615,288	546,090	69,198
	小計	2,786,431	2,632,384	154,046
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	—	—	—
	債券	13,452	13,500	△ 47
	国債	—	—	—
	地方債	796	800	△ 3
	社債	2,196	2,200	△ 3
	その他	10,459	10,500	△ 40
	その他	339,428	357,986	△ 18,557
	小計	352,881	371,486	△ 18,604
合計		3,139,312	3,003,871	135,441

(注) 上記差額合計から繰延税金負債37,639百万円を差し引いた額97,802百万円が、「その他有価証券評価差額金」に含まれています。

(2) 当年度中に売却したその他有価証券は、次のとおりです。

項目	売却額	売却益	売却損
その他	5,130百万円	941百万円	54百万円

7 金銭の信託に関する事項

金銭の信託の保有目的区分別の内訳は、次のとおりです。

(1) 運用目的の金銭の信託

貸借対照表計上額	4,990百万円
当年度の損益に含まれた評価差額	－百万円

(2) その他の金銭の信託

項目	貸借対照表計上額	取得原価	差額	うち貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	うち貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの
その他の金銭の信託	203,627百万円	208,660百万円	△5,033百万円	3,005百万円	△ 8,039百万円

- (注) 1 上記差額に繰延税金資産1,398百万円を加えた額3,634百万円が、「その他有価証券評価差額金」に含まれています。
- 2 「うち貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの」、「うち貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの」は、それぞれ「差額」の内訳です。
- 3 金銭の信託（運用目的の金銭の信託を除く。）で時価のあるもののうち、当該金銭の信託を構成する一部の有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって貸借対照表価額とするとともに、評価差額を当年度の損失として処理（以下「減損処理」という。）しています。当年度における減損処理額は、56百万円です。
- なお、減損処理に当たっては、当年度末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30%以上50%未満下落した場合は、回復の可能性を考慮して減損処理を行っています。

令和元年度

8 退職給付に関する事項

(1) 退職給付

ア 採用している退職給付制度の概要

当会では、確定給付型の制度として退職一時金制度（非積立型制度）を設けており、退職給付として給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しています。

当会が有する退職一時金制度は、原則法により退職給付引当金および退職給付費用を計算しています。

イ 確定給付制度

(ア) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務		2,703百万円
勤務費用		189百万円
利息費用		4百万円
数理計算上の差異の当期発生額	△	87百万円
退職給付の支払額	△	242百万円
期末における退職給付債務		2,567百万円

(イ) 退職給付に関連する損益

勤務費用		189百万円
利息費用		4百万円
数理計算上の差異の当期の費用処理額	△	87百万円
確定給付制度にかかる退職給付費用		106百万円

(ウ) 数理計算上の基礎計算に関する事項

期末における主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しています）

割引率 0.30%

- (2) 「厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合を図るための農林漁業団体職員共済組合法等を廃止する等の法律」附則第57条の規定に基づき、旧農林共済組合（存続組合）が行う特例年金給付等の業務に要する費用に充てるため、当年度に拠出した特例業務負担金は31百万円であり、特例業務負担金引当金から取り崩しています。

また、令和2年3月現在における令和14年3月までの特例業務負担金の将来見込額は、386百万円となっています。

9 税効果会計に関する事項

(1) 繰延税金資産および繰延税金負債の発生原因別の主な内訳等

(繰延税金資産の内訳)

相互援助積立金超過額		3,508百万円
退職給付引当金超過額		713百万円
貸倒引当金超過額		294百万円
特例業務負担金引当金繰入否認額		107百万円
未払事業税・事業所税		81百万円
減価償却損金算入限度超過額		53百万円
賞与引当金超過額		44百万円
その他		133百万円
小計		4,937百万円
評価性引当額	△	3,733百万円
繰延税金資産計 (A)		1,203百万円

(繰延税金負債の内訳)

その他有価証券評価差額金	△	36,240百万円
その他	△	3百万円
繰延税金負債計 (B)	△	36,243百万円
繰延税金負債の純額 (A)+(B)	△	35,039百万円

(2) 法定実効税率と法人税等負担率との差異の主な原因

法定実効税率		27.79%
(調整)		
事業分量配当金	△	7.50%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△	7.33%
評価性引当額の増減	△	0.82%
交際費等永久に損金に算入されない項目		0.05%
その他		0.09%
税効果会計適用後の法人税等の負担率		12.28%

貯金業務

科目別貯金平均残高

(単位：百万円、%)

種 類	平成30年度	令和元年度	増 減
流 動 性 貯 金	23,864(0.3)	24,833(0.3)	968
定 期 性 貯 金	7,662,378(99.7)	7,889,758(99.7)	227,380
そ の 他 の 貯 金	1,140(0.0)	1,277(0.0)	136
計	7,687,383(100.0)	7,915,869(100.0)	228,485
譲 渡 性 貯 金	1,626(0.0)	1,510(0.0)	△ 115
合 計	7,689,009(100.0)	7,917,380(100.0)	228,370

注1 流動性貯金＝当座貯金＋普通貯金＋貯蓄貯金＋通知貯金

2 定期性貯金＝定期貯金＋定期積金

3 その他の貯金＝別段貯金

4 ()内は構成比です。

定期貯金金利条件別残高

(単位：百万円、%)

種 類	平成30年度末	令和元年度末	増 減
定 期 貯 金	7,791,720(100.0)	7,929,196(100.0)	137,476
固 定 金 利 定 期	7,791,720(100.0)	7,929,196(100.0)	137,476
変 動 金 利 定 期	0(0.0)	0(0.0)	0

注1 固定金利定期：預入時に満期日までの利率が確定する定期貯金

2 変動金利定期：預入期間中の市場金利の変化に応じて利率が変動する定期貯金

3 ()内は構成比です。

貸出業務

科目別貸出金平均残高

(単位：百万円)

種 類	平成30年度	令和元年度	増 減
手形貸付	8,740	7,809	△ 930
証書貸付	400,388	402,701	2,312
当座貸越	22,270	19,388	△ 2,882
金融機関貸付	153,129	121,644	△ 31,485
割引手形	—	—	—
合 計	584,529	551,544	△ 32,985

貸出金の金利条件別残高

(単位：百万円、%)

種 類	平成30年度末	令和元年度末	増 減
固定金利貸出	302,287(55.5)	298,943(55.5)	△ 3,343
変動金利貸出	242,490(44.5)	239,280(44.5)	△ 3,209
合 計	544,777(100.0)	538,223(100.0)	△ 6,553

注 () 内は構成比です。

貸出金の担保別残高

(単位：百万円)

種 類	平成30年度末	令和元年度末	増 減
貯金等	30	1,127	1,097
有価証券	64	50	△ 14
動産	—	—	—
不動産	3,584	3,931	346
その他担保物	—	—	—
計	3,678	5,108	1,430
農業信用基金協会保証	—	—	—
その他保証	6,279	6,007	△ 272
計	6,279	6,007	△ 272
信用	534,819	527,107	△ 7,711
合 計	544,777	538,223	△ 6,553

貸出業務

債務保証の担保別残高

(単位：百万円)

種 類	平成30年度末	令和元年度末	増 減
貯 金 等	—	—	—
有 価 証 券	—	—	—
動 産	—	—	—
不 動 産	4,593	2,273	△ 2,320
そ の 他 担 保 物	—	—	—
計	4,593	2,273	△ 2,320
農 業 信 用 基 金 協 会 保 証	—	—	—
そ の 他 保 証	26	23	△ 2
計	26	23	△ 2
信 用	2,281	2,142	△ 139
合 計	6,902	4,439	△ 2,462

貸出金の使途別残高

(単位：百万円、%)

種 類	平成30年度末	令和元年度末	増 減
設 備 資 金	33,485(6.1)	29,696(5.5)	△ 3,788
運 転 資 金	511,292(93.9)	508,526(94.5)	△ 2,765
合 計	544,777(100.0)	538,223(100.0)	△ 6,553

注 () 内は構成比です。

貸出金の業種別残高

(単位：百万円、%)

種 類	平成30年度末	令和元年度末	増 減
農 業	2,847(0.5)	3,035(0.6)	187
林 業	—(—)	—(—)	—
水 産 業	—(—)	—(—)	—
製 造 業	55,378(10.2)	47,980(8.9)	△ 7,398
鉱 業	—(—)	—(—)	—
建 設 業	4,365(0.8)	3,099(0.6)	△ 1,265
電 気 ・ ガ ス ・ 熱 供 給 ・ 水 道 業	15,877(2.9)	15,235(2.8)	△ 642
運 輸 ・ 通 信 業	14,294(2.6)	13,684(2.5)	△ 610
卸 売 ・ 小 売 ・ 飲 食 業	55,643(10.2)	54,066(10.0)	△ 1,576
金 融 ・ 保 険 業	170,656(31.3)	171,708(31.9)	1,051
不 動 産 業	46,197(8.5)	46,425(8.6)	227
サ ー ビ ス 業	153,813(28.2)	159,741(29.7)	5,928
地 方 公 共 団 体	20,754(3.8)	19,133(3.6)	△ 1,620
そ の 他	4,948(0.9)	4,113(0.8)	△ 835
合 計	544,777(100.0)	538,223(100.0)	△ 6,553

注 () 内は構成比です。

主要な農業関係の貸出金残高

【営農類型別】

(単位：百万円)

種 類	平成30年度末	令和元年度末	増 減
農 業	3,214	3,485	270
穀 作	183	185	2
野 菜 ・ 園 芸	254	229	△ 24
果 樹 ・ 樹 園 農 業	1	3	1
工 芸 作 物	—	—	—
養 豚 ・ 肉 牛 ・ 酪 農	971	1,136	165
養 鶏 ・ 鶏 卵	1,328	1,392	64
養 蚕	—	—	—
そ の 他 農 業	475	537	62
農 業 関 連 団 体 等	15,684	14,274	△ 1,410
合 計	18,899	17,760	△ 1,139

注1 農業関係の貸出金とは、農業者、農業法人および農業関連団体等に対する農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。

2 「その他農業」には、複合経営で主たる業種が明確に位置づけられない者、農業所得等が含まれています。

3 「農業関連団体等」には、JAや連合会（全農）とその子会社等が含まれています。

【資金種類別】

(貸出金)

(単位：百万円)

種 類	平成30年度末	令和元年度末	増 減
プ ロ パ ー 資 金	18,421	17,388	△ 1,033
農 業 近 代 化 資 金	477	371	△ 106
合 計	18,899	17,760	△ 1,139

注1 プロパー資金とは、信連原資の資本を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。

2 農業制度資金には、①地方公共団体が直接的または間接的に融資するもの、②地方公共団体が利子補給等を行うことで信連が低利で融資するもの、③日本政策金融公庫が直接融資するものがあり、ここでは②のみを対象としています。

3 その他制度資金には、農業経営改善促進資金（スーパーS資金）や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

(受託貸付金)

(単位：百万円)

種 類	平成30年度末	令和元年度末	増 減
日 本 政 策 金 融 公 庫 資 金	34,148	21,903	△ 12,245
合 計	34,148	21,903	△ 12,245

注 日本政策金融公庫資金は、農業（旧農林漁業金融公庫）にかかる資金をいいます。

元本補てん契約のある信託にかかる貸出金のリスク管理債権の状況

該当する取引はありません。

貸出業務

貸倒引当金の期末残高および期中の増減額

(単位：百万円)

区 分	平成30年度				令和元年度			
	期 首 残 高	期 中 増 加 額	期 中 減 少 額	期 末 残 高	期 首 残 高	期 中 増 加 額	期 中 減 少 額	期 末 残 高
一 般 貸 倒 引 当 金	1,551	1,474	1,551	1,474	1,474	1,924	1,474	1,924
個 別 貸 倒 引 当 金	1,385	1,479	1,385	1,479	1,479	568	1,479	568
合 計	2,937	2,954	2,937	2,954	2,954	2,492	2,954	2,492

貸出金償却額

(単位：百万円)

区 分	平成30年度	令和元年度
貸 出 金 償 却 額	—	1,063

注 上記の金額は、個別貸倒引当金の目的使用による取崩額を相殺する前の金額です。

リスク管理債権額の状況

(単位：百万円)

区 分	平成30年度末	令和元年度末	増 減
破 綻 先 債 権	1,070	15	△ 1,054
延 滞 債 権	1,047	1,159	111
3 カ 月 以 上 延 滞 債 権	—	—	—
貸 出 条 件 緩 和 債 権	2,881	2,831	△ 50
合 計	4,999	4,005	△ 993

注 リスク管理債権は、貸出金について「農業協同組合法施行規則」に定める次の区分に準じて開示しています。

(1) 破綻先債権

元本または利息の支払いの遅延が相当期間継続していること、その他の事由により元本または利息の取立てまたは弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由または同項第4号に規定する事由が生じているものをいいます。

(2) 延滞債権

未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権および債務者の経営再建または支援を図ることを目的として利息の支払いを猶予したものをいいます。

(3) 3か月以上延滞債権

元本または利息の支払いが約定支払日の翌日から3か月以上延滞している貸出金で、破綻先債権および延滞債権に該当しないものをいいます。

(4) 貸出条件緩和債権

債務者の経営再建または支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、破綻先債権、延滞債権および3か月以上延滞債権に該当しないものをいいます。

金融再生法開示債権区分に基づく保全状況

(単位：百万円)

区 分	債権額	保全額			
		担保	保証	引当	合計
【平成30年度末】					
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	1,074	—	—	1,074	1,074
危険債権	1,110	492	0	405	897
要管理債権	2,881	—	50	8	58
計	5,065	492	50	1,487	2,030
正常債権	546,893				
合計	551,959				
【令和元年度末】					
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	19	—	—	19	19
危険債権	1,206	487	—	549	1,036
要管理債権	2,831	—	—	44	44
計	4,056	487	—	612	1,100
正常債権	538,859				
合計	542,916				

注 上記の債権区分は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律」（平成10年法律第132号）第6条に基づき、債務者の財政状態および経営成績等を基礎として、次のとおり区分したものです。なお、当会は同法の対象とはなっていませんが、参考として同法の定める基準に従い債権額を掲載しています。

- (1) 破産更生債権及びこれらに準ずる債権
破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権をいいます。
- (2) 危険債権
債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態および経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収および利息の受取りができない可能性の高い債権をいいます。
- (3) 要管理債権
3か月以上延滞債権で上記(1)および(2)に該当しないものならびに貸出条件緩和債権をいいます。
- (4) 正常債権
債務者の財政状態および経営成績に特に問題がないものとして、上記(1)から(3)までに掲げる債権以外のものに区分される債権をいいます。

有価証券業務

種類別有価証券平均残高

(単位：百万円)

種 類	平成30年度	令和元年度	増 減
国 債	2,078,674	1,936,281	△ 142,392
地 方 債	169,166	168,441	△ 724
金 融 債	11,532	—	△ 11,532
社 債	141,974	123,487	△ 18,486
株 式	2,970	2,968	△ 2
外 国 証 券	32,062	33,500	1,438
そ の 他 の 証 券	575,918	794,180	218,262
合 計	3,012,297	3,058,859	46,561

商品有価証券種類別平均残高

平成30年度、令和元年度とも、商品有価証券の取扱いはありません。

有価証券残存期間別残高

(単位：百万円)

種 類	1 年 以下	1 年 超 3 年 以下	3 年 超 5 年 以下	5 年 超 7 年 以下	7 年 超 10 年 以下	10 年 超	期間の定め のないもの	合 計
【平成30年度末】								
国 債	189,881	455,139	637,515	166,697	—	604,227	—	2,053,460
地 方 債	225	6,806	3,433	36,786	1,418	126,920	—	175,590
社 債	8,421	12,052	17,058	822	7,720	88,057	—	134,132
株 式	—	—	—	—	—	—	15,149	15,149
外 国 証 券	—	5,014	5,091	—	23,592	—	—	33,697
その他の証券	—	—	—	—	—	—	766,795	766,795
合 計	198,529	479,011	663,098	204,306	32,730	819,205	781,945	3,178,826
【令和元年度末】								
国 債	347,398	299,176	598,061	—	44,165	551,595	—	1,840,396
地 方 債	2,524	6,617	8,705	27,868	2,411	125,019	—	173,146
社 債	8,414	7,616	14,520	8,952	902	82,789	—	123,195
株 式	—	—	—	—	—	—	14,261	14,261
外 国 証 券	—	5,006	5,026	17,514	6,048	—	—	33,594
その他の証券	—	—	—	—	—	—	954,717	954,717
合 計	358,336	318,416	626,313	54,334	53,527	759,405	968,979	3,139,312

時価情報

有価証券の時価情報

- 1 売買目的有価証券
該当する取引はありません。
- 2 満期保有目的の債券
該当する取引はありません。
- 3 その他有価証券

(単位：百万円)

区 分	種 類	平成30年度末			令和元年度末		
		貸借対照表 計上額	取得原価	差 額	貸借対照表 計上額	取得原価	差 額
貸借対照表 計上額が取得原価を 超えるもの	株 式	15,149	2,937	12,212	14,261	2,937	11,324
	債 券	2,362,958	2,266,661	96,297	2,133,746	2,060,357	73,388
	国 債	2,053,460	1,967,579	85,880	1,840,396	1,777,937	62,459
	地 方 債	175,364	169,822	5,542	172,349	165,245	7,104
	社 債	134,132	129,258	4,874	120,999	117,174	3,825
	そ の 他	643,943	581,610	62,333	638,423	569,090	69,333
	外 国 証 券	33,697	33,500	197	23,134	23,000	134
	その他の証券	610,246	548,110	62,136	615,288	546,090	69,198
小 計	3,022,051	2,851,209	170,842	2,786,431	2,632,384	154,046	
貸借対照表 計上額が取得原価を 超えないもの	株 式	—	—	—	—	—	—
	債 券	225	225	△ 0	2,992	3,000	△ 7
	国 債	—	—	—	—	—	—
	地 方 債	225	225	△ 0	796	800	△ 3
	社 債	—	—	—	2,196	2,200	△ 3
	そ の 他	156,548	160,810	△ 4,261	349,888	368,486	△ 18,597
	外 国 証 券	—	—	—	10,459	10,500	△ 40
	その他の証券	156,548	160,810	△ 4,261	339,428	357,986	△ 18,557
小 計	156,774	161,036	△ 4,261	352,881	371,486	△ 18,604	
合 計		3,178,826	3,012,245	166,580	3,139,312	3,003,871	135,441

時価情報

金銭の信託の時価情報

1 運用目的の金銭の信託

(単位：百万円)

種 類	平成30年度末		令和元年度末	
	貸借対照表計上額	当年度の損益に含まれた評価損益	貸借対照表計上額	当年度の損益に含まれた評価損益
運用目的の金銭の信託	4,993	—	4,990	—

2 満期保有目的の金銭の信託

該当する取引はありません。

3 その他の金銭の信託

(単位：百万円)

種 類	平成30年度末					令和元年度末				
	貸借対照表計上額	取得原価	差 額	うち貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	うち貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	貸借対照表計上額	取得原価	差 額	うち貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	うち貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの
その他の金銭の信託	183,458	181,106	2,352	2,719	△ 367	203,627	208,660	△5,033	3,005	△8,039

注 「うち貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの」、「うち貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの」は、それぞれ「差額」の内訳です。

デリバティブ取引の時価情報

平成30年度末、令和元年度末とも、デリバティブ取引の取扱いはありません。

金融等デリバティブ取引の時価情報

(単位：百万円)

種 類		平成30年度末			令和元年度末		
		契約額等	時 価	評価損益	契約額等	時 価	評価損益
金利スワップ	受取固定支払変動	25,366	770	770	19,553	532	532
	受取変動支払固定	25,366	△ 770	△ 770	19,553	△ 532	△ 532
合 計				△ 0			△ 0

有価証券関連店頭デリバティブ取引の時価情報

平成30年度末、令和元年度末とも、有価証券関連店頭デリバティブ取引の取扱いはありません。

経営諸比率等

損益の状況

(単位：百万円、%)

種 類	平成30年度	令和元年度	増 減
資金運用収支	14,865	8,442	△ 6,422
役員取引等収支	1,134	1,165	30
その他事業収支	1,442	4,469	3,026
事業粗利益	17,441	14,077	△ 3,364
事業粗利益率	0.22	0.18	△ 0.04
業務純益	10,577	7,089	△ 3,488

注1 資金運用収支＝資金運用収益－（資金調達費用－金銭の信託運用見合費用）

注2 役員取引等収支＝役員取引等収益－役員取引等費用

注3 その他事業収支＝その他事業収益－その他事業費用

注4 事業粗利益＝資金運用収支＋役員取引等収支＋その他事業収支

注5 事業粗利益率＝事業粗利益／資金運用勘定平均残高×100

注6 業務純益＝事業粗利益－一般貸倒引当金繰入額－経費

受取・支払利息の増減額

(単位：百万円)

種 類	平成30年度	令和元年度
受 取 利 息	2,966	△ 6,209
うち預け金	3,936	△ 3,871
うち有価証券	△ 880	1,124
うち貸出金	△ 89	△ 3,462
支 払 利 息	2,211	212
うち貯金・定積	2,686	782
うち譲渡性貯金	△ 0	0
うち借入金	△ 108	△ 109
差 引	755	△ 6,422

注1 増減額は、前年度対比です。

注2 「うち預け金」には、受取奨励金および受取特別配当金が含まれています。

注3 「うち貯金・定積」には、JAに対する支払奨励金が含まれています。

注4 「支払利息」の増減額は、金銭の信託運用見合費用控除後の支払利息額の増減額です。

経営諸比率等

利益率

(単位：%)

種 類	平成30年度	令和元年度	増 減
総資産経常利益率	0.21	0.12	△ 0.09
純資産経常利益率	4.98	2.93	△ 2.05
総資産当期純利益率	0.16	0.11	△ 0.05
純資産当期純利益率	3.83	2.57	△ 1.26

- 注1 総資産経常利益率＝経常利益／総資産（債務保証見返を除く）平均残高×100
 2 純資産経常利益率＝経常利益／純資産勘定平均残高×100
 3 総資産当期純利益率＝当期剰余金（税引後）／総資産（債務保証見返を除く）平均残高×100
 4 純資産当期純利益率＝当期剰余金（税引後）／純資産勘定平均残高×100

貯貸率・貯証率

(単位：%)

種 類	平成30年度	令和元年度	増 減
貯 貸 率	期 末	7.0	△ 0.2
	期 中 平 均	7.6	△ 0.6
貯 証 率	期 末	40.7	△ 1.3
	期 中 平 均	39.2	△ 0.6

- 注1 貯貸率（期 末）＝貸出金残高／貯金残高×100
 2 貯貸率（期中平均）＝貸出金平均残高／貯金平均残高×100
 3 貯証率（期 末）＝有価証券残高／貯金残高×100
 4 貯証率（期中平均）＝有価証券平均残高／貯金平均残高×100

資金運用勘定・調達勘定の平均残高・利息・利回り

(単位：百万円、%)

種 類	平成30年度			令和元年度		
	平均残高	利 息	利回り	平均残高	利 息	利回り
資 金 運 用 勘 定	7,857,749	64,795	0.82	7,966,391	58,585	0.74
うち 預 け 金	4,260,739	33,984	0.80	4,355,865	30,113	0.69
うち 有 価 証 券	3,012,297	22,706	0.75	3,058,859	23,831	0.78
うち 貸 出 金	584,529	8,102	1.39	551,544	4,639	0.84
資 金 調 達 勘 定	7,745,069	49,930	0.64	7,898,707	50,142	0.63
うち 貯 金・定 積	7,687,383	50,067	0.65	7,915,869	50,850	0.64
うち 譲 渡 性 貯 金	1,626	0	0.04	1,510	0	0.05
うち 借 用 金	178,902	646	0.36	180,525	537	0.30
総 資 金 利 ざ や			0.09			0.02

- 注1 総資金利ざや＝資金運用利回り－資金調達原価率
 資金調達原価率＝（資金調達費用（貯金利息＋譲渡性貯金利息＋売現先利息＋債券貸借取引支払利息＋借入金利息＋金利スワップ支払利息＋その他支払利息（支払雑利息等））＋経費－金銭の信託運用見合費用）／（貯金＋譲渡性貯金＋売現先勘定＋債券貸借取引受入担保金＋借入金＋その他（貸付留保金、従業員預り金等）－金銭の信託運用見合額）×100
 2 資金運用勘定の「うち預け金」の利息には、受取奨励金および受取特別配当金が含まれています。
 3 資金調達勘定の「うち貯金・定積」の利息には、支払奨励金が含まれています。
 4 資金調達勘定計の平均残高および利息は、金銭の信託運用見合額および金銭の信託運用見合費用を控除しています。

役員等の報酬体系

1 役員

(1) 対象役員

開示の対象となる報酬告示に規定されている「対象役員」は、経営管理委員、理事および監事をいいます。

(2) 役員報酬等の種類、支払総額および支払方法

役員に対する報酬等の種類は、基本報酬と退職慰労金の2種類で、令和元年度における対象役員に対する報酬等の支払総額は、次のとおりです。

なお、基本報酬は毎月所定日に指定口座への振り込みの方法による現金支給のみであり、退職慰労金は、その支給に関する総会決議後、所定の手続きを経て、基本報酬に準じた方法で支払っています。

(単位：百万円)

区 分	支 給 総 額	
	基本報酬	退職慰労金
対象役員に対する報酬等	101	14

注1 対象役員は、経営管理委員13名、理事5名および監事4名です。

注2 退職慰労金については、当年度に実際に支給した額ではなく、当年度の費用として認識される部分の金額（引当金への繰入額と支給額のうち当年度の負担に属する金額）によっています。

(3) 対象役員の報酬等の決定等

ア 役員報酬（基本報酬）

役員報酬は、経営管理委員、理事および監事の別に各役員に支給する報酬総額の最高限度額を総会において決定し、その範囲内において、経営管理委員各人別の報酬額については経営管理委員会において、理事各人別の報酬額については理事会において決定し、監事各人別の報酬額については監事の協議によって定めています。

なお、業績連動型の報酬体系とはなっていません。

この場合の役員各人別の報酬額の決定にあたっては、各人の役職・責務等を勘案して決定していますが、その基準等については、中央会・各連合会役員報酬協議会（構成：中央会・連合会の役員（全共連県本部運営委員を含む。）および県下JA組合長の代表者4名以内ならびに協力団体・学識経験者4名以内の合計8名以内）に諮問をし、その答申を踏まえて決定しています。

また、上記の支給する報酬総額の最高限度額もこの基準をもとに決定しています。

イ 役員退職慰労金

役員退職慰労金については、役員報酬に役員在職年数に応じた係数を乗ずるなどして算定し、総会で経営管理委員、理事および監事の別に各役員に支給する退職慰労金の総額の承認を受けた後、役員退職慰労金支給規程に基づき、経営管理委員については経営管理委員会、理事については理事会、監事については監事の協議によって各人別の支給額と支給時期・方法を決定し、その決定に基づき支給しています。

なお、この役員退職慰労金の支給に備えて公正妥当なる会計慣行に即して引当金を計上しています。

2 職員等

開示の対象となる報酬告示に規定されている「対象職員等」の範囲は、当会の職員および当会の主要な連結子法人等の役員であって、常勤役員が受ける報酬等と同等額以上の報酬等を受ける者のうち、当会の業務および財産の状況に重要な影響を与える者をいいます。

なお、令和元年度において、対象職員等に該当する者はいません。

注1 対象職員等には、期中に退任・退職した者も含めています。

注2 「主要な連結子法人等」とは、当会の連結子法人等のうち、当会の連結総資産に対して2%以上の資産を有する会社等をいいます。

注3 「同等額」は、令和元年度に当会の常勤役員に支払った報酬額等の平均額としています。

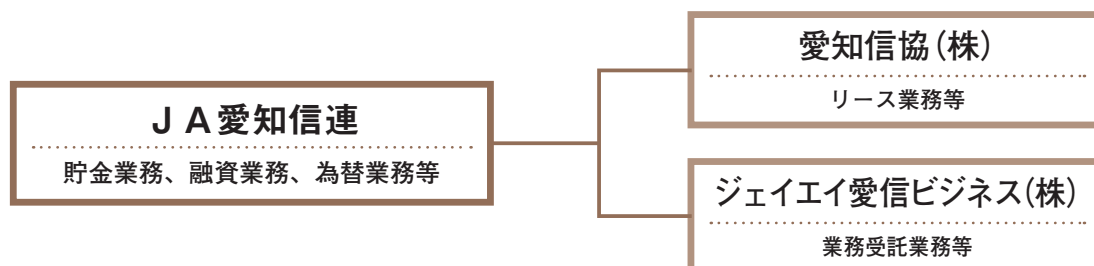
注4 令和元年度において当会の常勤役員が受ける報酬等と同等額以上の報酬等を受ける者はいません。

3 その他

当会の対象役員および対象職員等の報酬等の体系は、上記開示のとおり過度なリスクテイクを惹起するおそれのある要素はありません。したがって、報酬告示のうち、「対象役員および対象職員等の報酬等の体系とリスク管理の整合性ならびに対象役員および対象職員等の報酬等と業績の連動に関する事項」その他「報酬等の体系に関し参考となるべき事項」として、記載する内容はあります。

連結情報

グループの事業系統図



子会社の状況

(単位：百万円、%)

会社名	業務内容	所在地	設立年月日	資本金	議決権に対する当会の所有割合	議決権に対する当会および他の子会社等の所有割合
愛知信協株式会社	コンピューターおよび周辺設備機器、事務用機器、店舗設備ならびに自動車等のリース業務等	名古屋市名東区社口二丁目301番地	昭和43年12月24日	80	100.0	100.0
ジェイエイ愛信ビジネス株式会社	業務受託業務および労働者派遣業務等	名古屋市名東区社口二丁目301番地	平成11年8月12日	20	100.0	100.0

事業概況

当会は子会社である愛知信協株式会社およびジェイエイ愛信ビジネス株式会社と一体となって、県下JAシステム信用事業の発展に向けた事業を展開してまいりました。

その結果、当会およびこれら子会社との連結決算につきましては、当期剰余金として92億89百万円を計上することができました。

令和元年度の当会および子会社の事業の概況は、次のとおりです。

1 当会

当会におきましては、令和元年度は基本目標である「地域の農業と暮らしを持続的に支える「JAバンクあいち」の事業基盤の質的強化」を実現するため、量から質への転換に資するJAサポートの徹底等を柱とした事業計画を策定し、四つの基本方針に基づく事業活動を展開しました。

こうした事業活動の成果として、リスクとリターンのバランスを重視した貸出、効率的かつ安定的な余裕金の運用、徹底した経費の抑制等に取り組んだ結果、当期剰余金として92億55百万円を計上することができました。

2 子会社

(1) 愛知信協株式会社

愛知信協株式会社は、リース専門の金融関連子会社として、県下JA信用事業の事務処理の堅確化・効率化に資する信用事業関連機器の安定供給に努めるとともに、その他にも事務用機器、店舗設備、自動車等のリースを取り扱いました。

(2) ジェイエイ愛信ビジネス株式会社

ジェイエイ愛信ビジネス株式会社は、主として当会の従属業務を取り扱う子会社として、当会の経営効率化に資する業務受託に努め、口座振替依頼書集中管理業務などの業務を受託したほか、労働者派遣業務を取り扱い、当会業務の効率化に貢献しました。

連結ベースの主要な経営指標

(単位：百万円、%)

項 目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
経 常 収 益	76,504	77,557	76,723	80,677	74,192
経 常 利 益	19,625	17,676	15,030	17,056	10,594
当 期 剰 余 金	15,604	14,201	11,999	13,109	9,289
純 資 産 残 高	444,729	437,860	455,277	487,934	473,743
総 資 産 残 高	7,333,937	7,795,987	8,224,177	8,603,733	8,718,890
連 結 自 己 資 本 比 率	22.23	19.94	19.88	17.82	17.49

注 連結自己資本比率は、農協法第11条の2第1項第2号の規定に基づく組合の経営の健全性を判断するための基準に係る算式に基づき算出しています。
なお、当会は国内基準を採用しています。

連結リスク管理債権額の状況

連結によるリスク管理債権額の変更はありません。

連結セグメント情報

連結会社はリース等の事業を営んでいますが、その事業の全セグメントに占める割合が僅少であるため、事業の種類別セグメント情報は記載していません。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	平成31年3月末	令和2年3月末	科 目	平成31年3月末	令和2年3月末
(資産の部)			(負債の部)		
現 金	3,836	6,637	貯 金	7,812,521	7,961,859
預 け 金	4,355,498	4,495,391	譲 渡 性 貯 金	1,500	2,300
金 銭 の 信 託	188,451	208,617	借 用 金	175,185	167,800
有 価 証 券	3,178,826	3,139,312	そ の 他 負 債	57,986	57,816
貸 出 金	544,777	538,223	諸 引 当 金	13,313	13,314
そ の 他 資 産	12,421	12,560	退職給付に係る負債	2,713	2,578
有 形 固 定 資 産	2,662	2,830	繰 延 税 金 負 債	45,675	35,039
建 物	2,012	1,876	債 務 保 証	6,902	4,439
土 地	519	519	負債の部合計	8,115,798	8,245,147
その他有形固定資産	130	434	(純資産の部)		
無 形 固 定 資 産	417	477	出 資 金	209,402	220,402
ソフトウェア	410	471	利 益 剰 余 金	156,546	159,173
その他無形固定資産	7	6	子会社の所有する親連合会出資金	△ 0	△ 0
外 部 出 資	312,883	312,883	会 員 資 本 合 計	365,948	379,575
繰 延 税 金 資 産	10	7	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	121,986	94,167
債 務 保 証 見 返	6,902	4,439	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	121,986	94,167
貸 倒 引 当 金	△ 2,954	△ 2,492	純 資 産 の 部 合 計	487,934	473,743
資 産 の 部 合 計	8,603,733	8,718,890	負債及び純資産の部合計	8,603,733	8,718,890

連結情報

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	平成30年度	令和元年度
経常収益	80,677	74,192
資金運用収益	64,794	58,585
貸出金利息	8,101	4,639
預け金利息	415	415
有価証券利息配当金	22,706	23,831
コールローン等利息	0	—
その他受入利息	33,570	29,699
(うち受取奨励金)	(30,256)	(27,536)
(うち特別配当金)	(3,313)	(2,161)
役員取引等収益	4,134	4,184
その他事業収益	3,520	6,378
その他経常収益	8,227	5,043
経常費用	63,621	63,598
資金調達費用	50,719	51,390
貯金利息	12,423	6,616
譲渡性貯金利息	0	0
借入金利息	646	537
その他支払利息	37,647	44,236
(うち支払奨励金)	(37,643)	(44,233)
役員取引等費用	3,000	3,019
その他事業費用	702	530
経費	8,237	7,885
その他経常費用	962	772
(うち貸倒引当金繰入額)	—	601
経常利益	17,056	10,594
特別利益	194	—
固定資産処分益	194	—
特別損失	395	2
固定資産処分損	2	2
特例業務負担金引当金繰入額	393	—
税金等調整前当期利益	16,855	10,591
法人税、住民税及び事業税	3,877	1,231
法人税等調整額	△ 131	71
法人税等合計	3,745	1,302
当期剰余金	13,109	9,289

連結剰余金計算書

(単位：百万円)

科 目	平成30年度	令和元年度
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	150,336	156,546
利益剰余金増加高	13,109	9,289
当期剰余金	13,109	9,289
利益剰余金減少高	6,899	6,661
配当金	6,899	6,661
利益剰余金期末残高	156,546	159,173

連結情報

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	平成30年度	令和元年度
1 事業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期利益	16,855	10,591
減価償却費	426	371
貸倒引当金の増減額(△は減少)	17	△ 461
その他の引当金・積立金の増減額(△は減少)	1,253	△ 134
資金運用収益	△ 64,794	△ 58,585
資金調達費用	50,719	51,390
有価証券関係損益(△は益)	△ 3,222	958
金銭の信託の運用損益(△は運用益)	△ 3,284	△ 3,993
固定資産関係処分損益(△は益)	△ 192	1
貸出金の純増(△)減	47,774	6,553
預け金の純増(△)減	△ 194,500	△ 120,000
貯金の純増減(△)	331,424	149,338
譲渡性貯金の純増減(△)	△ 1,500	800
借入金の純増減(△)	11,643	3,615
事業分量配当金の支払額	△ 3,660	△ 3,313
その他	5,178	1,909
資金運用による収入	68,074	62,825
資金調達による支出	△ 48,133	△ 50,735
小計	214,078	51,132
法人税等の支払額	△ 4,036	△ 4,324
事業活動によるキャッシュ・フロー	210,042	46,807
2 投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△ 555,398	△ 306,211
有価証券の売却による収入	186,565	5,130
有価証券の償還による収入	349,063	308,495
金銭の信託の増加による支出	△ 100,000	△ 27,578
固定資産の取得による支出	△ 165	△ 602
固定資産の売却による収入	199	—
外部出資による支出	△ 58,517	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 178,252	△ 20,765
3 財務活動によるキャッシュ・フロー		
劣後特約付借入金の返済による支出	△ 11,000	△ 11,000
出資の増額による収入	11,000	11,000
出資の払戻しによる支出	△ 0	—
出資配当金の支払額	△ 3,238	△ 3,348
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,238	△ 3,348
4 現金及び現金同等物の増加額	28,551	22,693
5 現金及び現金同等物の期首残高	260,779	289,330
6 現金及び現金同等物の期末残高	289,330	312,024

注記表

平成 30 年度

1 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

- (1) 連結子会社は、愛知信協株式会社およびジェイエイ愛信ビジネス株式会社の2社です。
- (2) 持分法適用の子法人等に該当する会社および法人はありません。
- (3) 連結される子会社の決算日は、当会と同じ3月末日です。
- (4) 連結剰余金計算書は、連結会計期間において確定した利益処分に基づいて作成しています。
- (5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）の範囲は、連結貸借対照表上の「現金」ならびに「預け金」中の当座預け金、普通預け金、通知預け金です。

2 重要な会計方針に関する事項

- (1) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しており、金額百万円未満の科目については「0」で表示しています。
- (2) 有価証券（外部出資決定の株式を含む。）の評価基準および評価方法は、有価証券の保有目的区分ごとに次のとおりです。
 - ア 売買目的有価証券 … 時価法（売却原価は移動平均法により算定）
 - イ 子会社株式および関連会社株式 … 原価法（売却原価は移動平均法により算定）
 - ウ その他有価証券
 - ア 時価のあるもの … 原則として連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
 - イ 時価を把握することが極めて困難と認められるもの … 原価法（売却原価は移動平均法により算定）
なお、取得価額と券面金額との差額のうち金利調整と認められる部分については、償却原価法による取得価額の修正を行っています。
- (3) 金銭の信託の評価基準および評価方法は、上記(2)の有価証券と同様の方法であり、信託の契約単位ごとに信託財産の構成物である資産および負債の評価額の合計額をもって連結貸借対照表に計上しています。
- (4) デリバティブ取引の評価は、時価法により行っています。
- (5) 当会の有形固定資産の減価償却は、定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く。）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については定額法）を採用し、資産から直接減額して計上しています。
また、主な耐用年数は次のとおりです。

建 物	7年～50年
そ の 他	3年～45年

 なお、子会社のうち、愛知信協株式会社の有形固定資産の減価償却は、主にリース期間定額法を採用し、資産から直接減額して計上しています。
- (6) 当会の無形固定資産の減価償却は、定額法により償却しています。そのうち自社利用ソフトウェアについては、当会における利用可能期間（5年）に基づいて償却しています。
- (7) 外貨建の資産・負債は、主として連結決算日の為替相場による円換算額を付しています。
- (8) 貸倒引当金は、資産の償却および引当要額により、次のとおり計上しています。
正常先債権および要注意先債権（要管理債権を含む。）に相当する債権については、貸倒実績率等に基づき算定した額を計上しています。
破綻懸念先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額および保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち必要と認める額を引き当てています。
破綻先債権および実質破綻先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額および保証による回収可能見込額を控除した残額を引き当てています。
すべての債権は、資産自己査定規程に基づき、資産査定部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しています。
- (9) 相互援助積立金は、JAバンクの信用向上に資することを目的として、愛知県JAバンク支援制度要領に基づき、必要額を積み立てております。
- (10) 賞与引当金は、職員への賞与の支払いに備えるため、職員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しています。
- (11) 役員退職慰労引当金は、役員の退任給与の支給に備えるため、役員退職慰労金引当規程に基づき、当連結会計年度末要支給見積額を計上しています。
- (12) 環境対策引当金は、ポリ塩化ビフェニル（PCB）廃棄物の処理費用の支出に備えるため、処理費用および収集運搬費用の見積額を計上しています。
- (13) 特例業務負担金引当金は、農林漁業団体職員共済組合により通知される特例業務負担金の将来負担見込額に基づき計上しています。
（追加情報）
従来、特例業務負担金については、将来見込額を注記する方法によっておりましたが、将来負担額の確定性が高まったことから、財務内容をより健全化するため、当連結会計年度より特例業務負担金引当金として負債に計上する方法に変更しております。
これにより、従来の方法によった場合と比較して、税金等調整前当期利益が393百万円減少しております。
- (14) 退職給付に係る負債は、職員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき、必要額を計上しています。退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっています。また、過去勤務費用および数理計算上の差異の費用処理方法は、発生年度における一括処理としています。
なお、連結子会社は、退職給付に係る負債および退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。
- (15) 消費税および地方消費税の会計処理は、税抜方式により行っています。ただし、固定資産にかかわる控除対象外消費税等は当連結会計年度の費用に計上しています。

（追加情報）

『『税効果会計に係る会計基準』の一部改正』（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当連結会計年度から適用しています。

連結情報

平成 30 年度

3 連結貸借対照表に関する事項

- (1) 有形固定資産の減価償却累計額は、4,104百万円です。
- (2) 連結貸借対照表に計上した固定資産のほか、リース契約により使用している重要な固定資産として自動車等があり、未経過リース料年度末残高相当額は、次のとおりです。

	1年以内	1年超	合計
オペレーティング・リース	8百万円	11百万円	20百万円

- (3) 内国為替決済の取引の担保および先物取引証拠金等の代用として、預け金60,000百万円、有価証券1,018百万円および差入保証金6百万円を提供しています。
- (4) 無担保の消費貸借契約（債券貸借取引）により貸し付けている有価証券が、国債に合計8,154百万円含まれております。
- (5) 当会の経営管理委員、理事および監事に対する金銭債権はありません。
- (6) 当会の経営管理委員、理事および監事に対する金銭債務はありません。
- (7) 貸出金のうち、破綻先債権額は1,070百万円、延滞債権額は1,047百万円です。
なお、破綻先債権とは、元本または利息の支払いの遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本または利息の取立てまたは弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由または同項第4号に規定する事由が生じている貸出金です。
また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権および債務者の経営再建または支援を図ることを目的として利息の支払いを猶予した貸出金以外の貸出金です。
- (8) 貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額はありませぬ。
なお、3カ月以上延滞債権とは、元本または利息の支払いが約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸出金で破綻先債権および延滞債権に該当しないものです。
- (9) 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は2,881百万円です。
なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建または支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権および3カ月以上延滞債権に該当しないものです。
- (10) 破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額および貸出条件緩和債権額の合計額は4,999百万円です。
なお、(7)から(10)に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額です。
- (11) 割引手形は、業種別監査委員会報告第24号に基づき、金融取引として処理しています。これにより受け入れた商業手形は、自由に処分できる権利を有していますが、当年度末の残高はありません。
- (12) 当座貸越契約および貸付金にかかるコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約です。
これらの契約にかかる融資未実行残高は、85,004百万円です。
- (13) 貸出金には、他の債権よりも債務の履行が後順位である旨および債務者が実質破綻状態と認定された場合には後配出資へ強制転換される旨の特約が付された劣後特約付貸出金83,824百万円が含まれています。
- (14) 借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金55,000百万円が含まれています。

4 金融商品に関する事項

- (1) 金融商品の状況に関する事項

ア 金融商品に対する取組方針

当会は、愛知県を事業区域として、地元のJA等が会員となって運営されている相互扶助型の農業専門金融機関であり、地域経済の活性化に資する地域金融機関です。

JAは農家組合員や地域から預かった貯金を原資に、農家組合員や地域へ貸し付け、その残りを当会が預かる仕組みとなっています。

当会では、これを原資として、資金を必要とするJAや農業に関連する企業・団体および、県内の地場企業や団体、地方公共団体などに貸付を行っています。

また、残った資金は農林中央金庫に預け入れるほか、国債や地方債等の債券、投資信託、株式等の有価証券による運用を行っています。

イ 金融商品の内容およびそのリスク

当会が保有する金融資産は、主として県内の取引先および個人に対する貸出金および有価証券であり、貸出金は、顧客の契約不履行によってもたらされる信用リスクにさらされています。

また、有価証券は、主に株式、債券、投資信託であり、純投資目的（その他目的）で保有しています。

これらは、それぞれ発行体の信用リスクおよび金利の変動リスク、市場価格の変動リスクにさらされています。

なお、デリバティブ取引には、金利スワップ取引があり、金利の変動リスクにさらされています。

借入金には、自己資本増強の一環として、会員である地元のJAから借り入れた永久劣後特約付借入金が含まれています。

劣後特約付借入金は、債務返済の履行が他の債務よりも後順位である旨の特約が付された無担保・無保証の借入金であり、自己資本比率の算出において適格旧資本調達手段として経過措置により自己資本への計上が認められているものです。

平成 30 年度

ウ 金融商品にかかるリスク管理体制

(ア) 信用リスクの管理

当会は、リスク管理方針および信用リスク管理規程に基づき、信用リスクの管理を行っています。

貸出金については、個別案件ごとの与信審査の実施、与信限度額、信用格付、保証や担保の設定、信用情報の管理、問題債権への対応などを行っています。

これらの与信管理については、食農法人営業部および業務部のほかリスク統括部により行われています。

また、与信管理の状況については、リスク統括部が定期的にモニタリングを実施し、資金運用リスク管理委員会、統合リスク・財務統括委員会および理事会へ報告しています。

有価証券の発行体の信用リスクについては、リスク統括部において、格付や時価を把握することで管理を行い、資金運用リスク管理委員会へ報告しています。

(イ) 市場リスクの管理

a 金利リスクの管理

当会は、リスク管理方針および市場リスク管理規程に基づき、ALMにより金利リスクの管理を行っています。

また、資産・負債を総合的に管理し、運用方針などを策定するALM委員会を設置し、金利リスクの把握・分析および対応策の協議を行っています。

なお、財務企画部において、資産・負債の金利や期間を総合的に把握し、シミュレーション分析等を行い、ALM委員会へ報告しています。

b 為替リスクの管理

当会は、リスク管理方針および市場リスク管理規程に基づき、為替レートや個別の案件ごとの時価等を把握することで、為替リスクの管理を行っています。

c 価格変動リスクの管理

当会は、リスク管理方針および市場リスク管理規程に基づき、価格変動リスクの管理を行っています。

有価証券等の運用については、余裕金運用規程に従い、理事会で承認された運用方針に基づき行っています。

また、利用限度枠等を設定し、運用状況の継続的なモニタリングを通じ、価格変動リスクの軽減を図っています。

なお、価格変動リスクの状況については、有価証券等の運用商品の時価等により把握し、利用限度枠等の運用状況とともに、リスク統括部から資金運用リスク管理委員会、統合リスク・財務統括委員会および理事会へ報告しています。

d デリバティブ取引

デリバティブ取引に関しては、取引の執行と事務管理に関する部門をそれぞれ分離し、内部けん制を確立した中で行っております。

e 市場リスクにかかる定量的情報

当会で保有している金融商品は、すべてトレーディング目的以外の金融商品です。

当会において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、「預け金」、「貸出金」、「有価証券」のその他有価証券に分類される債券、「貯金」、「借入金」、「デリバティブ取引」のうち金利スワップ取引です。

当会では、これらの金融資産および金融負債について、期末後1年程度の金利の合理的な予想変動幅を用いた経済価値の変動額を、金利の変動リスクの管理に当たっての定量的分析に利用しています。

金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当連結会計年度末現在、指標となる金利が0.20%上昇したものと想定した場合には、経済価値が39,782百万円減少するものと把握しています。

当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数の相関を考慮していません。

また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

(ウ) 流動性リスクの管理

当会は、リスク管理方針および流動性リスク管理規程に基づき、適時に資金管理を行うほか、市場環境を考慮した長短の調達バランス調整などによって、流動性リスクを管理しています。

エ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価（時価に代わるものを含む。）には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額（これに準ずる価額を含む。）が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なる場合もあります。

連結情報

平成 30 年度

(2) 金融商品の時価等に関する事項

ア 金融商品の連結貸借対照表計上額および時価等

当連結会計年度末における連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額は、次のとおりです。

なお、時価の把握が困難なものについては、次表には含めず下記ウに記載しています。

(単位：百万円)

項 目	連結貸借対照表計上額	時 価	差 額
預け金	4,355,498	4,355,685	186
金銭の信託	188,451	188,451	—
運用目的の金銭の信託	4,993	4,993	—
その他目的の金銭の信託	183,458	183,458	—
有価証券	3,178,826	3,178,826	—
その他有価証券	3,178,826	3,178,826	—
貸出金	544,900		
貸倒引当金	△ 2,926		
貸倒引当金控除後	541,973	548,321	6,347
資 産 計	8,264,750	8,271,284	6,534
貯金	7,814,021	7,820,686	6,664
借入金	175,185	175,185	0
負 債 計	7,989,206	7,995,872	6,665
デリバティブ取引			
ヘッジ会計が適用されていないもの	(0)	(0)	—
デリバティブ取引計	(0)	(0)	—

(注) 1 貸出金に対応する一般貸倒引当金および個別貸倒引当金を控除しています。

2 貸出金には、連結貸借対照表上のその他資産に計上している従業員貸付金122百万円を含めています。

3 貯金には、連結貸借対照表上の譲渡性貯金1,500百万円を含めています。

4 デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で表示しています。

イ 金融商品の時価の算定方法

(ア) 資産

a 預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

満期のある預け金については、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートである円Libor・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

b 金銭の信託

信託財産を構成している貸出金や有価証券の時価は、下記cおよびdと同様の方法により評価しています。

c 有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引所の価格または取引金融機関等から提示された価格によっています。また、投資信託については、公表されている基準価格によっています。

d 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異ならない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額として算定しています。

一方、固定金利によるものは、貸出金の種類、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートである円Libor・スワップレートで割り引き、貸倒引当金を控除して時価に代わる金額として算定しています。

また、延滞債権・期限の利益を喪失した債権等については、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額として算定しています。

(イ) 負債

a 貯金

要求払貯金については、決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしています。また、定期性貯金の時価は、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートである円Libor・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

b 借入金

借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当会の信用状態は、実行後大きく異ならないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっています。

一方、固定金利によるものは、一定の期間毎に区分した当該借入金の元利金の合計額をリスクフリーレートである円Libor・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

(ウ) デリバティブ取引

デリバティブ取引は、金利関連取引(金利スワップ等)であり、割引現在価値により算出した価額によっています。

ウ 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであり、これらは上記アの金融商品の時価情報には含まれていません。

連結貸借対照表計上額

外部出資 312,883百万円

(注) 外部出資のうち、市場価格のある株式以外のものについては、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価開示の対象としていません。

平成 30 年度

エ 金銭債権および満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

項目	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
預け金	4,355,498	—	—	—	—	—
有価証券	206,231	375,769	159,183	314,664	474,160	1,390,593
その他有価証券のうち満期 があるもの	206,231	375,769	159,183	314,664	474,160	1,390,593
貸出金	87,289	91,343	83,932	55,314	57,465	168,155
合計	4,649,019	467,112	243,116	369,979	531,625	1,558,749

(注) 1 貸出金のうち、当座貸越（融資型を除く。）3,379百万円については「1年以内」に含めています。

また、期限のない劣後特約付貸出金83,824百万円については「5年超」に含めています。

2 貸出金のうち、3カ月以上延滞債権・期限の利益を喪失した債権等1,276百万円は償還の予定が見込まれないため、含めていません。

オ 借入金およびその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

(単位：百万円)

項目	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
貯金	7,791,671	11,810	2,620	4,162	1,625	631
譲渡性貯金	1,500	—	—	—	—	—
借入金	10,985	40,400	51,600	17,200	—	55,000
合計	7,804,156	52,210	54,220	21,362	1,625	55,631

(注) 1 貯金のうち、要求払貯金については「1年以内」に含めています。

2 借入金のうち、期限のない劣後特約付借入金55,000百万円については「5年超」に含めています。

5 有価証券に関する事項

(1) 有価証券の時価および評価差額等に関する事項は、次のとおりです。

ア 売買目的有価証券

売買目的有価証券は、保有していません。

イ その他有価証券

その他有価証券において、種類ごとの連結貸借対照表計上額、取得原価およびこれらの差額については、次のとおりです。

(単位：百万円)

項目	種類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	15,149	2,937	12,212
	債券	2,396,655	2,300,161	96,494
	国債	2,053,460	1,967,579	85,880
	地方債	175,364	169,822	5,542
	社債	134,132	129,258	4,874
	その他	33,697	33,500	197
	その他	610,246	548,110	62,136
	小計	3,022,051	2,851,209	170,842
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	—	—	—
	債券	225	225	△ 0
	国債	—	—	—
	地方債	225	225	△ 0
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	その他	156,548	160,810	△ 4,261
	小計	156,774	161,036	△ 4,261
合計		3,178,826	3,012,245	166,580

(注) 上記差額合計から繰延税金負債46,292百万円を差し引いた額120,287百万円が、「その他有価証券評価差額金」に含まれています。

(2) 当連結会計年度中に売却したその他有価証券は、次のとおりです。

項目	売却額	売却益	売却損
債券	167,316百万円	708百万円	—百万円
その他	12,560百万円	4,867百万円	—百万円
合計	179,877百万円	5,576百万円	—百万円

連結情報

平成 30 年度

6 金銭の信託に関する事項

金銭の信託の保有目的区分別の内訳は、次のとおりです。

(1) 運用目的の金銭の信託

連結貸借対照表計上額	4,993百万円
当年度の損益に含まれた評価差額	－百万円

(2) その他の金銭の信託

項目	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額	うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの
その他の金銭の信託	183,458百万円	181,106百万円	2,352百万円	2,719百万円	△ 367百万円

(注) 1 上記差額合計から繰延税金負債653百万円を差し引いた額1,698百万円が、「その他有価証券評価差額金」に含まれています。

2 「うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの」、「うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの」は、それぞれ「差額」の内訳です。

7 退職給付に関する事項

(1) 退職給付

ア 採用している退職給付制度の概要

当会では、確定給付型の制度として退職一時金制度（非積立型制度）を設けており、退職給付として給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しています。

当会が有する退職一時金制度は、原則法により退職給付に係る負債および退職給付費用を計算しています。

イ 確定給付制度

(ア) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務	2,713百万円
勤務費用	191百万円
利息費用	6百万円
数理計算上の差異の当期発生額	△ 5百万円
退職給付の支払額	△ 192百万円
期末における退職給付債務	2,713百万円

(イ) 退職給付に関連する損益

勤務費用	191百万円
利息費用	6百万円
数理計算上の差異の当期の費用処理額	△ 5百万円
確定給付制度にかかる退職給付費用	192百万円

(ウ) 数理計算上の基礎計算に関する事項

期末における主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しています）

割引率 0.15%

(2) 人件費には、「厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合を図るための農林漁業団体職員共済組合法等を廃止する等の法律」附則第57条の規定に基づき、旧農林共済組合（存続組合）が行う特例年金給付等の業務に要する費用に充てるため拠出した特例業務負担金を含めて計上しています。

なお、当連結会計年度において存続組合に対して拠出した特例業務負担金の額は、32百万円となっています。

また、存続組合より示された平成31年3月現在における令和14年3月までの特例業務負担金の将来見込額は、393百万円となっています。

8 税効果会計に関する事項

(1) 繰延税金資産および繰延税金負債の発生原因別の主な内訳等

(繰延税金資産の内訳)

相互援助積立金超過額	3,508百万円
退職給付引当金超過額	754百万円
貸倒引当金超過額	262百万円
未払事業税・事業所税	249百万円
特例業務負担金繰入否認額	109百万円
減価償却損金算入限度超過額	71百万円
賞与引当金超過額	46百万円
その他	101百万円
小計	5,104百万円
評価性引当額	△ 3,819百万円
繰延税金資産計 (A)	1,284百万円

(繰延税金負債の内訳)

その他有価証券評価差額金	△ 46,946百万円
その他	△ 3百万円
繰延税金負債計 (B)	△ 46,950百万円
繰延税金負債の純額 (A)+(B)	△ 45,665百万円

平成 30 年度

(2) 法定実効税率と法人税等負担率との差異の主な原因		
法定実効税率		27.68%
(調整)		
事業分量配当金	△	5.44%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△	1.60%
評価性引当額の増減		1.44%
交際費等永久に損金に算入されない項目		0.08%
その他		0.06%
税効果会計適用後の法人税等の負担率		22.22%

連結情報

令和元年度

1 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

- (1) 連結子会社は、愛知信協株式会社およびジェイエイ愛信ビジネス株式会社の2社です。
- (2) 持分法適用の子法人等に該当する会社および法人はありません。
- (3) 連結される子会社の決算日は、当会と同じ3月末日です。
- (4) 連結剰余金計算書は、連結会計期間において確定した利益処分に基づいて作成しています。
- (5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）の範囲は、連結貸借対照表上の「現金」ならびに「預け金」中の当座預け金、普通預け金、通知預け金です。

2 重要な会計方針に関する事項

- (1) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しており、金額百万円未満の科目については「0」で表示しています。
- (2) 有価証券（外部出資勘定の株式を含む。）の評価基準および評価方法は、有価証券の保有目的区分ごとに次のとおりです。
ア 売買目的有価証券…時価法（売却原価は移動平均法により算定）
イ その他有価証券
 (ア) 時価のあるもの…原則として連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
 (イ) 時価を把握することが極めて困難と認められるもの…原価法（売却原価は移動平均法により算定）
 なお、取得価額と券面金額との差額のうち金利調整と認められる部分については、償却原価法による取得価額の修正を行っています。
- (3) 金銭の信託の評価基準および評価方法は、上記(2)の有価証券と同様の方法であり、信託の契約単位ごとに信託財産の構成物である資産および負債の評価額の合計額をもって連結貸借対照表に計上しています。
- (4) デリバティブ取引の評価は、時価法により行っています。
- (5) 当会の有形固定資産の減価償却は、定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く。）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については定額法）を採用し、資産から直接減額して計上しています。
また、主な耐用年数は次のとおりです。
 建 物 7年～50年
 そ の 他 3年～45年
 なお、子会社のうち、愛知信協株式会社の有形固定資産の減価償却は、主にリース期間定額法を採用し、資産から直接減額して計上しています。
- (6) 当会の無形固定資産の減価償却は、定額法により償却しています。そのうち自社利用ソフトウェアについては、当会における利用可能期間（5年）に基づいて償却しています。
- (7) 外貨建の資産・負債は、主として連結決算日の為替相場による円換算額を付しています。
- (8) 貸倒引当金は、資産の償却および引当要額により、次のとおり計上しています。
 正常先債権および要注意先債権（要管理債権を含む。）に相当する債権については、将来発生が見込まれる損失額を見込んで計上しており、損失額は、3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定しています。
 破綻懸念先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額および保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち必要と認める額を引き当てています。
 破綻先債権および実質破綻先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額および保証による回収可能見込額を控除した残額を引き当てています。
 すべての債権は、資産自己査定規程に基づき、資産査定部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しています。
- (9) 相互援助積立金は、JAバンクの信用向上に資することを目的として、愛知県JAバンク支援制度要領に基づき、必要額を積み立てております。
- (10) 賞与引当金は、職員への賞与の支払いに備えるため、職員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しています。
- (11) 役員退職慰労引当金は、役員の退任給与の支給に備えるため、役員退職慰労金引当規程に基づき、当連結会計年度末要支給見積額を計上しています。
- (12) 環境対策引当金は、ポリ塩化ビフェニル（PCB）廃棄物の処理費用の支出に備えるため、処理費用および収集運搬費用の見積額を計上しています。
- (13) 特例業務負担金引当金は、農林漁業団体職員共済組合に対して支払う特例業務負担金の支出に充てるため、当連結会計年度末における特例業務負担金の将来負担見込額に基づき計上しています。
- (14) 退職給付に係る負債は、職員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき、必要額を計上しています。退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっています。また、過去勤務費用および数理計算上の差異の費用処理方法は、発生年度における一括処理としています。
 なお、連結子会社は、退職給付に係る負債および退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。
- (15) 消費税および地方消費税の会計処理は、税抜方式により行っています。ただし、固定資産にかかわる控除対象外消費税等は当連結会計年度の費用に計上しています。

3 会計上の見積りの変更に関する事項

特例業務負担金引当金は、従来、農林漁業団体職員共済組合より通知された特例業務負担金の将来負担見込額を計上していましたが、当連結会計年度より当会の標準報酬月額等の固有の状況や負担率変動の可能性等の実態をより適切に反映させることが可能となったことから、特例業務負担金の将来負担見込額に基づく方法に変更しています。
これにより、従来の方と比べて、当連結会計年度の人件費が9百万円増加し、経常利益、税金等調整前当期利益が同額減少しています。

令和元年度

4 連結貸借対照表に関する事項

- (1) 有形固定資産の減価償却累計額は、4,240百万円です。
 (2) 連結貸借対照表に計上した固定資産のほか、リース契約により使用している重要な固定資産として自動車等があり、未経過リース料年度末残高相当額は、次のとおりです。

	1年以内	1年超	合計
オペレーティング・リース	10百万円	14百万円	24百万円

- (3) 内国為替決済の取引の担保および先物取引証拠金等の代用として、預け金60,000百万円、有価証券1,003百万円および差入保証金6百万円を提供しています。
 (4) 無担保の消費貸借契約（債券貸借取引）により貸し付けている有価証券が、国債に合計22,299百万円含まれています。また、信託契約により信託している有価証券が、国債に合計10,286百万円含まれています。
 (5) 当会の経営管理委員、理事および監事に対する金銭債権はありません。
 (6) 当会の経営管理委員、理事および監事に対する金銭債務はありません。
 (7) 貸出金のうち、破綻先債権額は15百万円、延滞債権額は1,159百万円です。
 なお、破綻先債権とは、元本または利息の支払いの遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本または利息の取立てまたは弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由または同項第4号に規定する事由が生じている貸出金です。
 また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権および債務者の経営再建または支援を図ることを目的として利息の支払いを猶予した貸出金以外の貸出金です。
 (8) 貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額はありませぬ。
 なお、3カ月以上延滞債権とは、元本または利息の支払いが約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸出金で破綻先債権および延滞債権に該当しないものです。
 (9) 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は2,831百万円です。
 なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建または支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権および3カ月以上延滞債権に該当しないものです。
 (10) 破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額および貸出条件緩和債権額の合計額は4,005百万円です。
 なお、(7)から(10)に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額です。
 (11) 割引手形は、業種別監査委員会報告第24号に基づき、金融取引として処理しています。これにより受け入れた商業手形は、自由に処分できる権利を有していますが、当連結会計年度末の残高はありません。
 (12) 当座貸越契約および貸付金にかかるコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約です。
 これらの契約にかかる融資未実行残高は、78,719百万円です。
 (13) 貸出金には、他の債権よりも債務の履行が後順位である旨および債務者が実質破綻状態と認定された場合には後配出資へ強制転換される旨の特約が付された劣後特約付貸出金83,824百万円が含まれています。
 (14) 借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金44,000百万円が含まれています。

5 金融商品に関する事項

- (1) 金融商品の状況に関する事項

ア 金融商品に対する取組方針

当会は、愛知県を事業区域として、地元のJ A等が会員となって運営されている相互扶助型の農業専門金融機関であり、地域経済の活性化に資する地域金融機関です。

J Aは農家組合員や地域から預かった貯金を原資に、農家組合員や地域へ貸し付け、その残りを当会が預かる仕組みとなっています。

当会では、これを原資として、資金を必要とするJ Aや農業に関連する企業・団体および、県内の地場企業や団体、地方公共団体などに貸付を行っています。

また、残った資金は農林中央金庫に預け入れるほか、国債や地方債等の債券、投資信託、株式等の有価証券による運用を行っています。

イ 金融商品の内容およびそのリスク

当会が保有する金融資産は、主として県内の取引先および個人に対する貸出金および有価証券であり、貸出金は、顧客の契約不履行によってもたらされる信用リスクにさらされています。

また、有価証券は、主に株式、債券、投資信託であり、純投資目的（その他目的）で保有しています。

これらは、それぞれ発行体の信用リスクおよび金利の変動リスク、市場価格の変動リスクにさらされています。

なお、デリバティブ取引には、金利スワップ取引があり、金利の変動リスクにさらされています。

借入金には、自己資本増強の一環として、会員である地元のJ Aから借り入れた永久劣後特約付借入金が含まれています。

劣後特約付借入金は、債務返済の履行が他の債務よりも後順位である旨の特約が付された無担保・無保証の借入金であり、自己資本比率の算出において適格旧資本調達手段として経過措置により自己資本への計上が認められているものです。

ウ 金融商品にかかるリスク管理体制

ア) 信用リスクの管理

当会は、リスク管理方針および信用リスク管理規程に基づき、信用リスクの管理を行っています。

貸出金については、個別案件ごとの与信審査の実施、与信限度額、信用格付、保証や担保の設定、信用情報の管理、問題債権への対応などを行っています。

これらの与信管理については、食農法人営業部および業務部のほかリスク統括部により行われています。

また、与信管理の状況については、リスク統括部が定期的にモニタリングを実施し、資金運用リスク管理委員会、統合リスク・財務統括委員会および理事会へ報告しています。

有価証券の発行体の信用リスクについては、リスク統括部において、格付や時価を把握することで管理を行い、資金運用リスク管理委員会へ報告しています。

連結情報

令和元年度

(イ) 市場リスクの管理

a 金利リスクの管理

当会は、リスク管理方針および市場リスク管理規程に基づき、ALMにより金利リスクの管理を行っています。

また、資産・負債を総合的に管理し、運用方針などを策定するALM委員会を設置し、金利リスクの把握・分析および対応策の協議を行っています。

なお、財務企画部において、資産・負債の金利や期間を総合的に把握し、シミュレーション分析等を行い、ALM委員会へ報告しています。

b 為替リスクの管理

当会は、リスク管理方針および市場リスク管理規程に基づき、為替レートや個別の案件ごとの時価等を把握することで、為替リスクの管理を行っています。

c 価格変動リスクの管理

当会は、リスク管理方針および市場リスク管理規程に基づき、価格変動リスクの管理を行っています。

有価証券等の運用については、余裕金運用規程に従い、理事会で承認された運用方針に基づき行っています。

また、利用限度枠等を設定し、運用状況の継続的なモニタリングを通じ、価格変動リスクの軽減を図っています。

なお、価格変動リスクの状況については、有価証券等の運用商品の時価等により把握し、利用限度枠等の運用状況とともに、リスク統括部から資金運用リスク管理委員会、統合リスク・財務統括委員会および理事会へ報告しています。

d デリバティブ取引

デリバティブ取引に関しては、取引の執行と事務管理に関する部門をそれぞれ分離し、内部けん制を確立した中で行っております。

e 市場リスクにかかる定量的情報

当会で保有している金融商品は、すべてトレーディング目的以外の金融商品です。

当会において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、「預け金」、「貸出金」、「有価証券」のその他の有価証券に分類される債券、「貯金」、「借入金」です。

当会では、これらの金融資産および金融負債について、期末後1年程度の金利の合理的な予想変動幅を用いた経済価値の変動額を、金利の変動リスクの管理に当たっての定量的分析に利用しています。

金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当連結会計年度末現在、指標となる金利が0.30%上昇したものと想定した場合には、経済価値が52,276百万円減少するものと把握しています。

当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数の相関を考慮していません。

また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

(ウ) 流動性リスクの管理

当会は、リスク管理方針および流動性リスク管理規程に基づき、適時に資金管理を行うほか、市場環境を考慮した長短の調達バランス調整などによって、流動性リスクを管理しています。

エ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価（時価に代わるものを含む。）には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額（これに準ずる価額を含む。）が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なる場合もあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

ア 金融商品の連結貸借対照表計上額および時価等

当連結会計年度末における連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額は、次のとおりです。

なお、時価の把握が困難なものについては、次表には含めず下記に記載しています。

(単位：百万円)

項 目	連結貸借対照表計上額	時 価	差 額
預け金	4,495,391	4,495,585	194
金銭の信託	208,617	208,617	—
運用目的の金銭の信託	4,990	4,990	—
その他目的の金銭の信託	203,627	203,627	—
有価証券	3,139,312	3,139,312	—
その他有価証券	3,139,312	3,139,312	—
貸出金	538,340		
貸倒引当金	△ 2,467		
貸倒引当金控除後	535,872	540,923	5,050
資 産 計	8,379,194	8,384,439	5,244
貯金	7,964,159	7,965,484	1,324
借入金	167,800	167,800	—
負 債 計	8,131,959	8,133,284	1,324
デリバティブ取引			
ヘッジ会計が適用されていないもの	(0)	(0)	—
デリバティブ取引計	(0)	(0)	—

(注) 1 貸出金に対応する一般貸倒引当金および個別貸倒引当金を控除しています。

2 貸出金には、連結貸借対照表上のその他資産に計上している従業員貸付金116百万円を含めています。

3 貯金には、連結貸借対照表上の譲渡性貯金2,300百万円を含めています。

4 デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で表示しています。

令和元年度

イ 金融商品の時価の算定方法

(ア) 資産

a 預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

満期のある預け金については、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートである円Libor・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

b 金銭の信託

信託財産を構成している有価証券や貸出金の時価は、下記cおよびdと同様の方法により評価しています。

c 有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引所の価格または取引金融機関等から提示された価格によっています。また、投資信託については、公表されている基準価格によっています。

d 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額として算定しています。

一方、固定金利によるものは、貸出金の種類、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートである円Libor・スワップレートで割り引き、貸倒引当金を控除して時価に代わる金額として算定しています。

また、延滞債権・期限の利益を喪失した債権等については、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としています。

(イ) 負債

a 貯金

要求払貯金については、決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしています。また、定期性貯金の時価は、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートである円Libor・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

b 借入金

借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当社の信用状態は、実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっています。

一方、固定金利によるものは、一定の期間毎に区分した当該借入金の元利金の合計額をリスクフリーレートである円Libor・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

(ウ) デリバティブ取引

デリバティブ取引は、金利関連取引（金利スワップ等）であり、割引現在価値により算出した価額によっています。

ウ 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであり、これらは上記アの金融商品の時価情報には含まれていません。

連結貸借対照表計上額

外部出資 312,883百万円

(注) 外部出資のうち、市場価格のある株式以外のものについては、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価開示の対象としていません。

エ 金銭債権および満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

項目	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
預け金	4,495,391	—	—	—	—	—
有価証券	379,018	124,498	330,501	524,874	186,487	1,375,252
その他有価証券のうち満期があるもの	379,018	124,498	330,501	524,874	186,487	1,375,252
貸出金	123,205	86,301	59,426	72,476	35,368	161,243
合計	4,997,615	210,799	389,928	597,351	221,855	1,536,496

(注) 1 貸出金のうち、当座貸越（融資型を除く。）4,933百万円については「1年以内」に含めています。

また、期限のない劣後特約付貸出金83,824百万円については「5年超」に含めています。

2 貸出金のうち、3カ月以上延滞債権・期限の利益を喪失した債権等200百万円は償還の予定が見込まれないため、含めていません。

オ 借入金およびその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

(単位：百万円)

項目	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
貯金	7,903,990	40,310	4,291	1,625	314	11,326
譲渡性貯金	2,300	—	—	—	—	—
借入金	39,500	50,300	17,100	16,900	—	44,000
合計	7,945,790	90,610	21,391	18,525	314	55,326

(注) 1 貯金のうち、要求払貯金については「1年以内」に含めています。

2 借入金のうち、期限のない劣後特約付借入金44,000百万円については「5年超」に含めています。

連結情報

令和元年度

6 有価証券に関する事項

(1) 有価証券の時価および評価差額等に関する事項は、次のとおりです。

ア 売買目的有価証券

売買目的有価証券は、保有していません。

イ その他有価証券

その他有価証券において、種類ごとの連結貸借対照表計上額、取得原価およびこれらの差額については、次のとおりです。

(単位：百万円)

項目	種類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	14,261	2,937	11,324
	債券	2,156,880	2,083,357	73,523
	国債	1,840,396	1,777,937	62,459
	地方債	172,349	165,245	7,104
	社債	120,999	117,174	3,825
	その他	23,134	23,000	134
	その他	615,288	546,090	69,198
	小計	2,786,431	2,632,384	154,046
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	—	—	—
	債券	13,452	13,500	△ 47
	国債	—	—	—
	地方債	796	800	△ 3
	社債	2,196	2,200	△ 3
	その他	10,459	10,500	△ 40
	その他	339,428	357,986	△ 18,557
	小計	352,881	371,486	△ 18,604
合計		3,139,312	3,003,871	135,441

(注) 上記差額合計から繰延税金負債37,639百万円を差し引いた額97,802百万円が、「その他有価証券評価差額金」に含まれています。

(2) 当連結会計年度中に売却したその他有価証券は、次のとおりです。

項目	売却額	売却益	売却損
その他	5,130百万円	941百万円	54百万円

7 金銭の信託に関する事項

金銭の信託の保有目的区分別の内訳は、次のとおりです。

(1) 運用目的の金銭の信託

連結貸借対照表計上額	4,990百万円
当連結会計年度の損益に含まれた評価差額	—百万円

(2) その他の金銭の信託

項目	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額	うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの
その他の金銭の信託	203,627百万円	208,660百万円	△5,033百万円	3,005百万円	△ 8,039百万円

(注) 1 上記差額に繰延税金資産1,398百万円を加えた額3,634百万円が、「その他有価証券評価差額金」に含まれています。

2 「うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの」、「うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの」は、それぞれ「差額」の内訳です。

3 金銭の信託（運用目的の金銭の信託を除く。）で時価のあるもののうち、当該金銭の信託を構成する一部の有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって連結貸借対照表価額とするとともに、評価差額を当連結会計年度の損失として処理（以下「減損処理」という。）しています。

当連結会計年度における減損処理額は、56百万円です。

なお、減損処理に当たっては、当連結会計年度末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30%以上50%未満下落した場合は、回復の可能性を考慮して減損処理を行っています。

令和元年度

8 退職給付に関する事項

(1) 退職給付

ア 採用している退職給付制度の概要

当会では、確定給付型の制度として退職一時金制度（非積立型制度）を設けており、退職給付として給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しています。

当会が有する退職一時金制度は、原則法により退職給付に係る負債および退職給付費用を計算しています。

イ 確定給付制度

(ア) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務		2,713百万円
勤務費用		190百万円
利息費用		4百万円
数理計算上の差異の当期発生額	△	87百万円
退職給付の支払額	△	242百万円
期末における退職給付債務		2,578百万円

(イ) 退職給付に関連する損益

勤務費用		190百万円
利息費用		4百万円
数理計算上の差異の当期の費用処理額	△	87百万円
確定給付制度にかかる退職給付費用		106百万円

(ウ) 数理計算上の基礎計算に関する事項

期末における主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しています）

割引率 0.30%

- (2) 「厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合を図るための農林漁業団体職員共済組合法等を廃止する等の法律」附則第57条の規定に基づき、旧農林共済組合（存続組合）が行う特例年金給付等の業務に要する費用に充てるため、当連結会計年度に拠出した特例業務負担金は、31百万円であり、特例業務負担金引当金から取り崩しています。

また、令和2年3月現在における令和14年3月までの特例業務負担金の将来見込額は、386百万円となっています。

連結情報

令和元年度

9 税効果会計に関する事項

(1) 繰延税金資産および繰延税金負債の発生原因別の主な内訳等

(繰延税金資産の内訳)			
相互援助積立金超過額			3,508百万円
退職給付引当金超過額			717百万円
貸倒引当金超過額			294百万円
特例業務負担金引当金繰入否認額			107百万円
未払事業税・事業所税			81百万円
減価償却損金算入限度超過額			54百万円
賞与引当金超過額			44百万円
その他			136百万円
小計			4,944百万円
評価性引当額		△	3,733百万円
繰延税金資産計	(A)		1,211百万円
(繰延税金負債の内訳)			
其他有価証券評価差額金		△	36,240百万円
その他		△	2百万円
繰延税金負債計	(B)	△	36,243百万円
繰延税金負債の純額	(A)+(B)	△	35,031百万円

(2) 法定実効税率と法人税等負担率との差異の主な原因

法定実効税率		27.79%
(調整)		
事業分量配当金	△	7.47%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△	7.30%
評価性引当額の増減	△	0.82%
交際費等永久に損金に算入されない項目		0.05%
その他		0.05%
税効果会計適用後の法人税等の負担率		12.30%